２　大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意
（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
（３）備蓄量
（４）災害発生時の水や食料の確保
（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策
（６）対策をしていない理由
（７）地域の避難場所の認知
（８）避難場所の認知経路
（９）大規模災害時の避難生活場所
(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

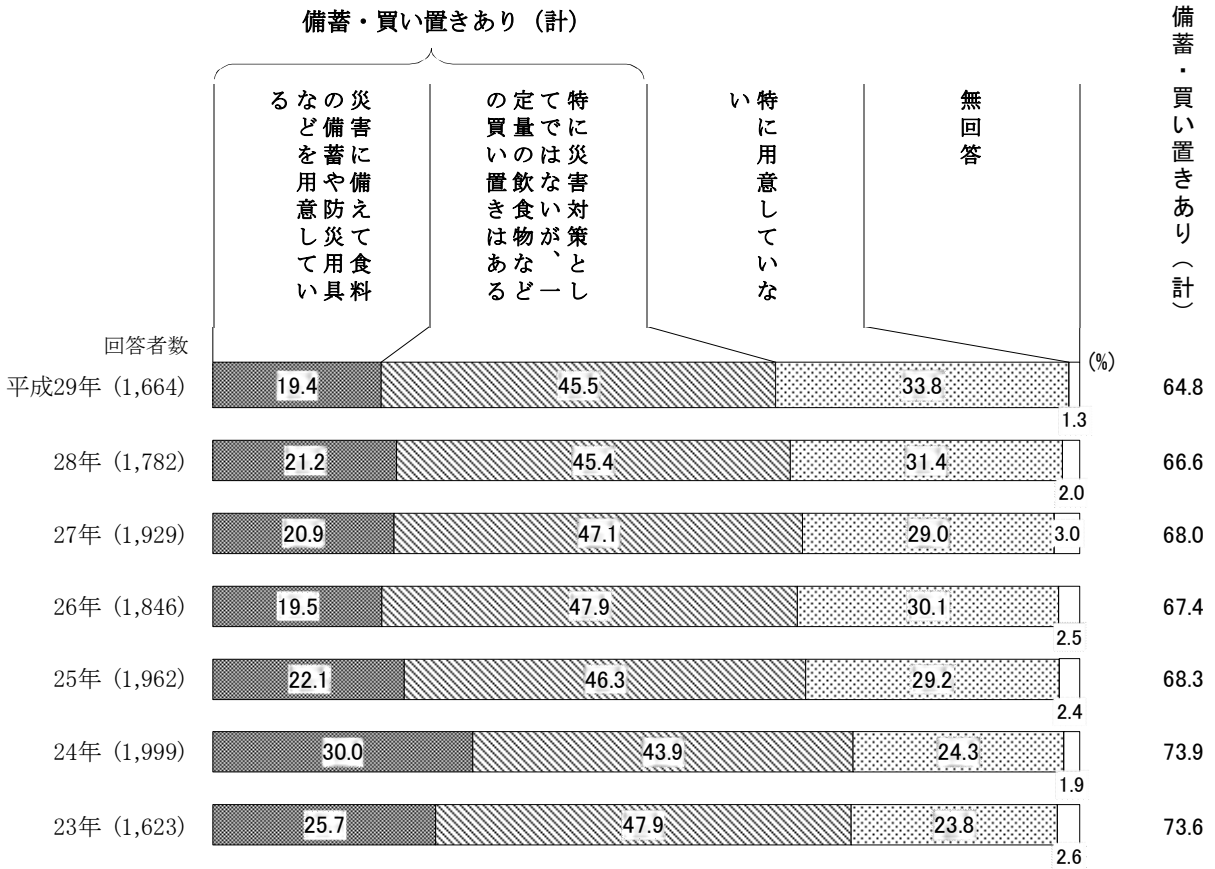
２．大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意

■ 用意していない方の微増が続く

> 問５　あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は１つだけ）。

図２－１－１　経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が19.4%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が45.5%で、両者を合わせて【備蓄・買い置きあり】は64.8%となっている。一方、「特に用意していない」は33.8%となっている。

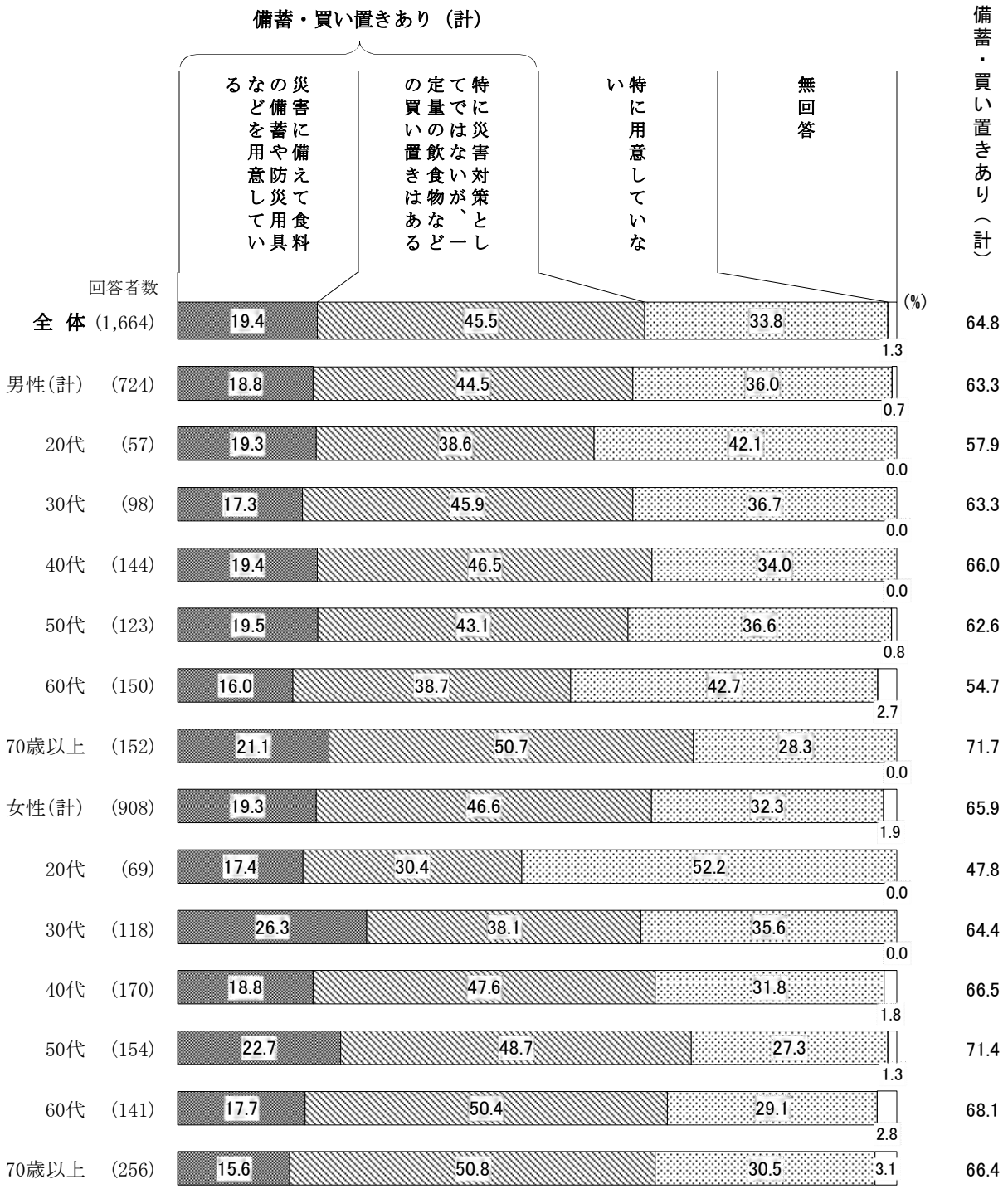
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の21.2%から、今回19.4%と微減している。また、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」は、前回45.4%から今回45.5%とほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が65.9％と、男性（63.3％）よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代、60代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が６割を超えている。

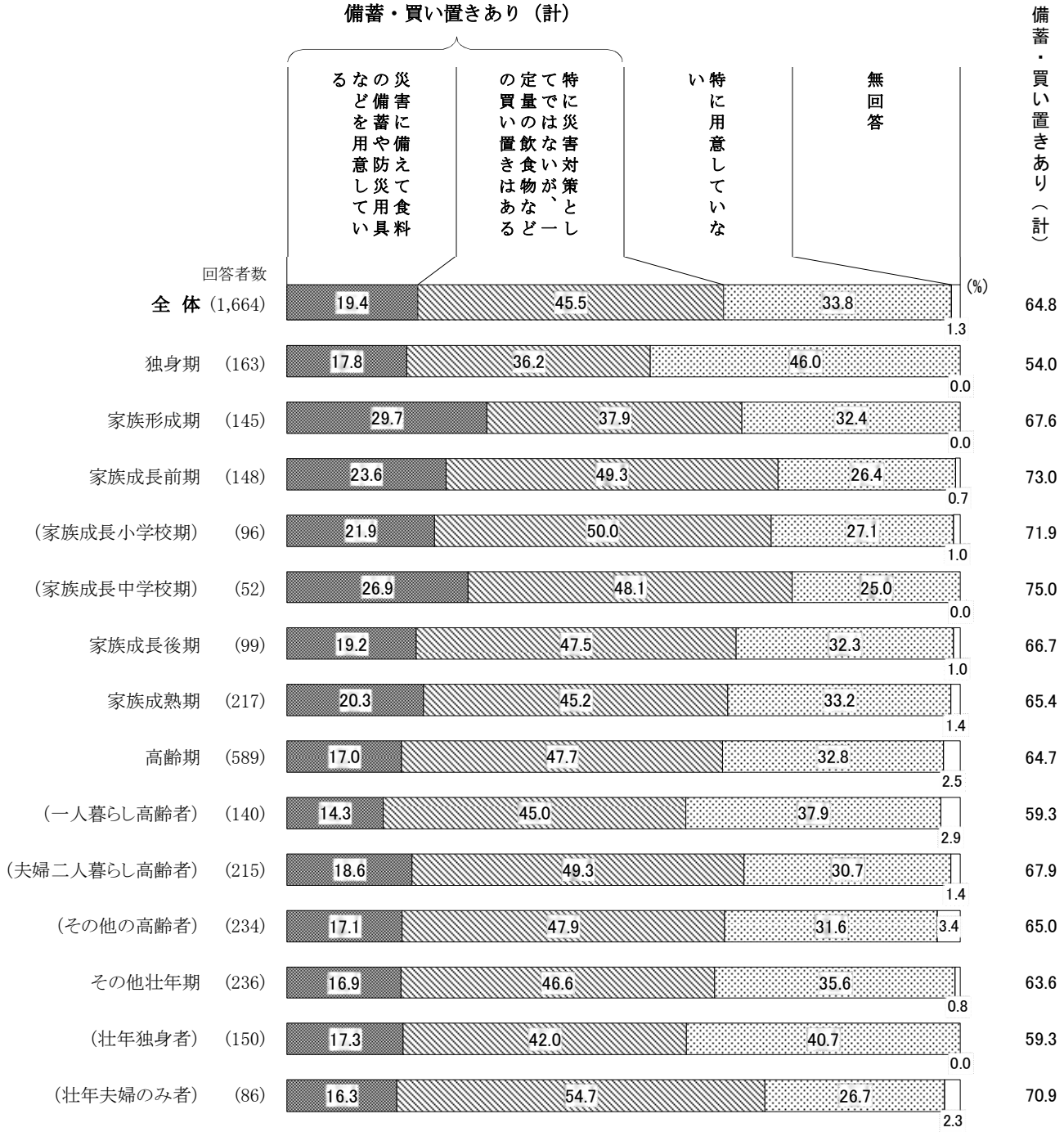
女性では、20代を除く各年代で【備蓄・買い置きあり】が６割を超えている。

図２－１－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



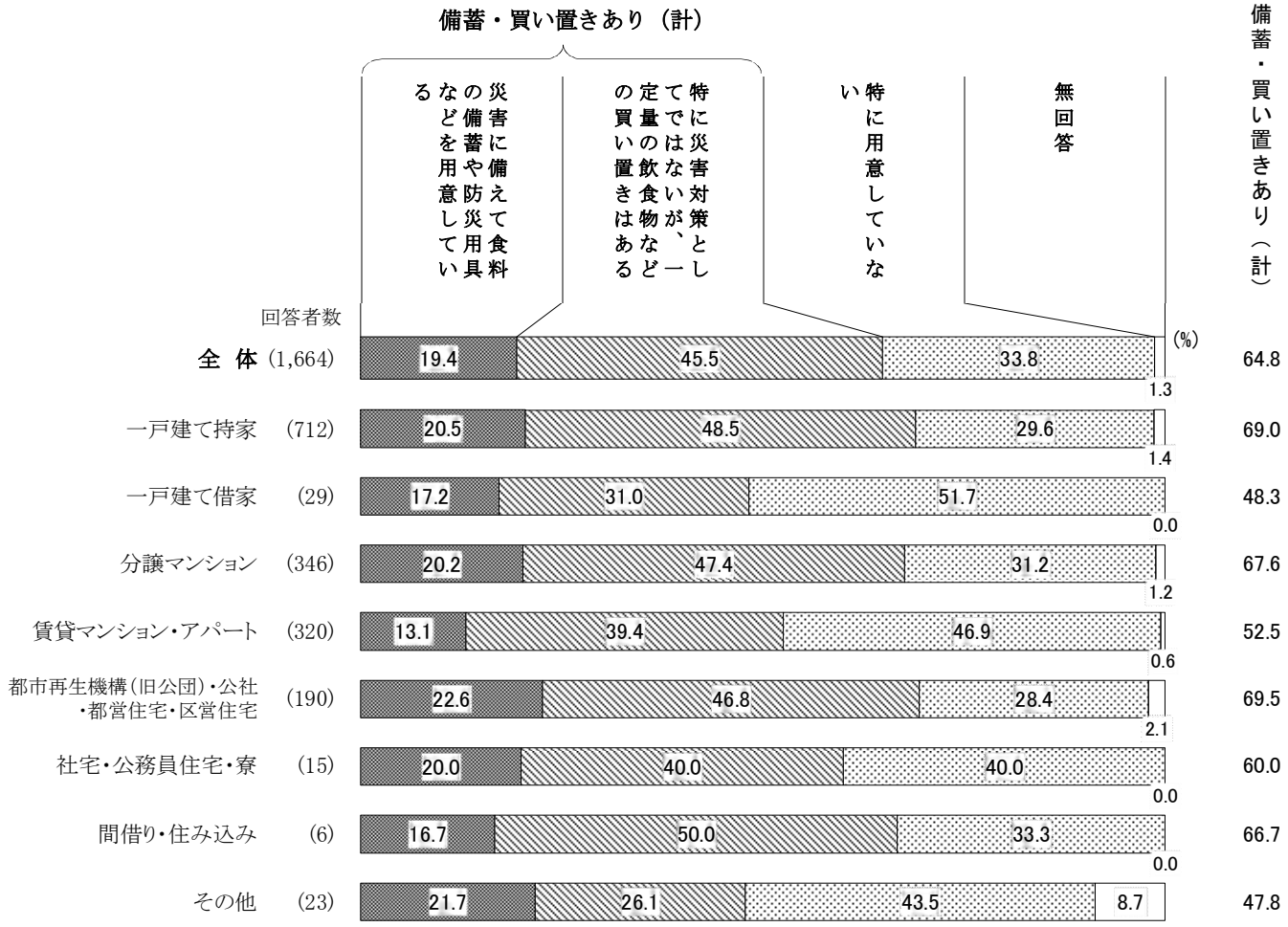
ライフステージ別でみると、家族成長前期で【備蓄・買い置きあり】は73.0％と高くなっている。

図２－１－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



住居形態別でみると、一戸建て持家、分譲マンション、年再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅では【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ69.0%、67.6%、69.5%と高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは【備蓄・買い置きあり】が、それぞれ48.3%、52.5%と、他の住居形態に比べて低くなっている。

図２－１－４　住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■　「水」「食料」が９割強、「あかり」は７割台後半

問５で「１．災害に備えて～」、または「２．特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問５－１　備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください。
（○はあてはまるものすべて）

図２－２－１－①　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

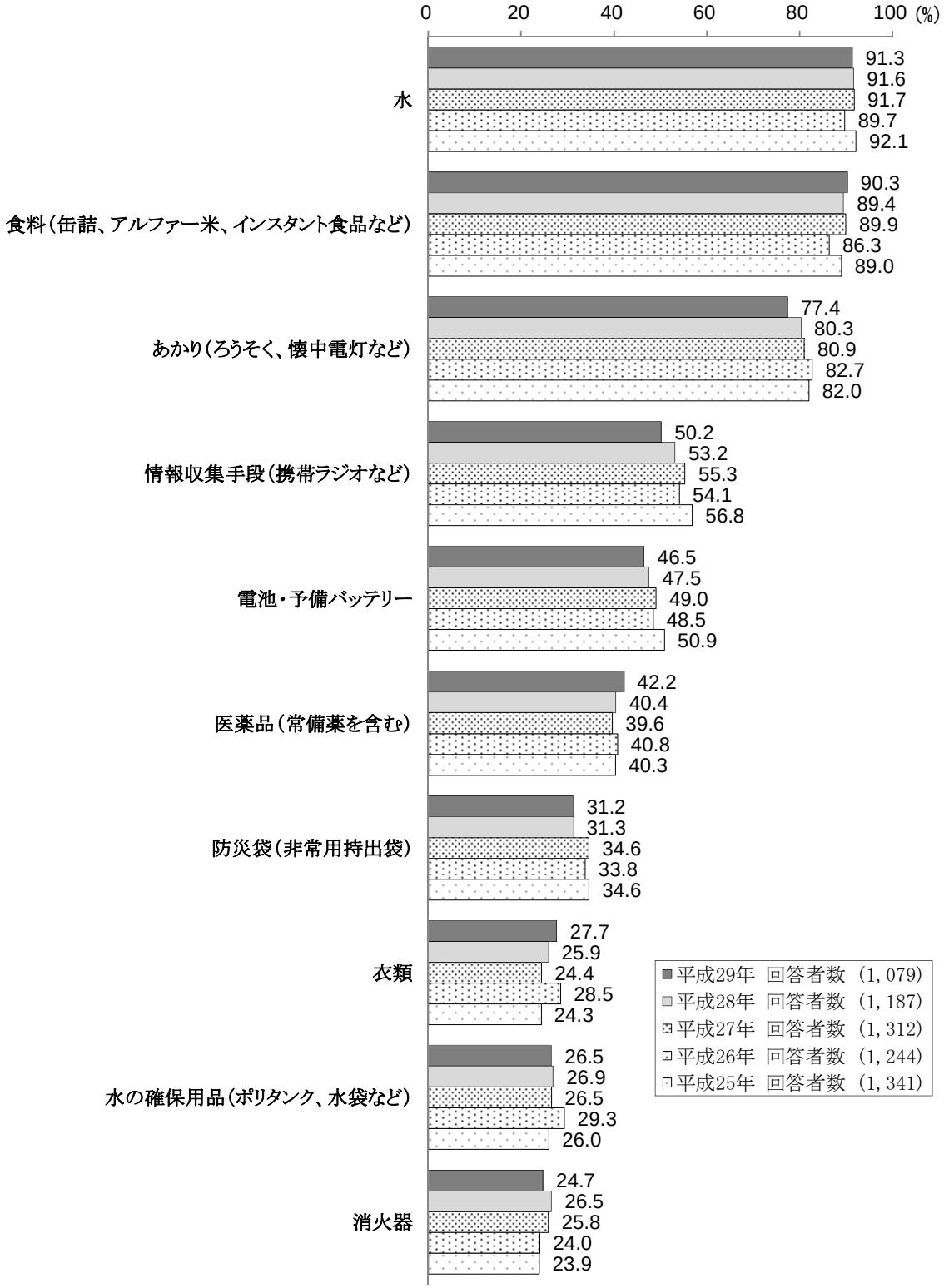
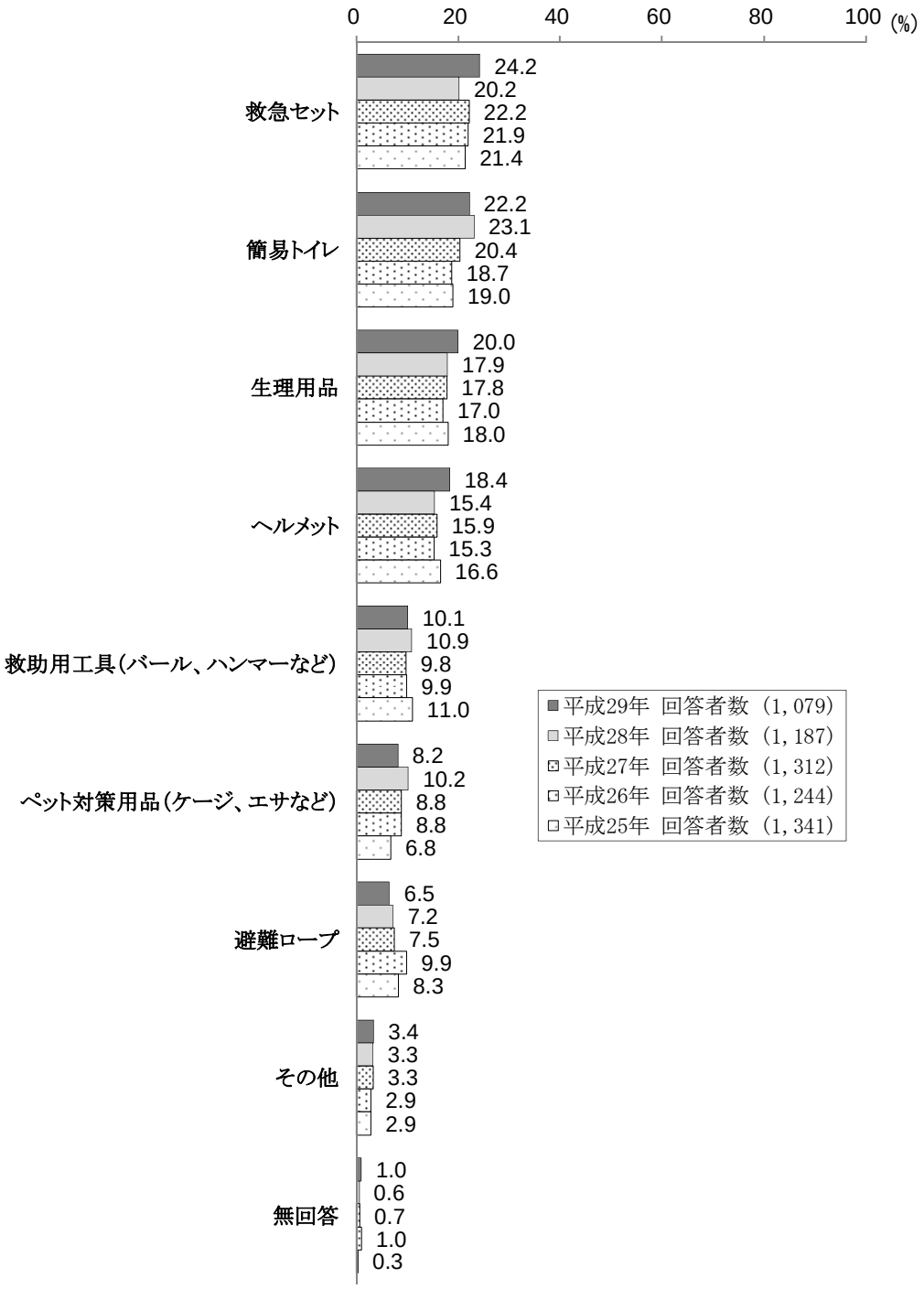


図２－２－１－②　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



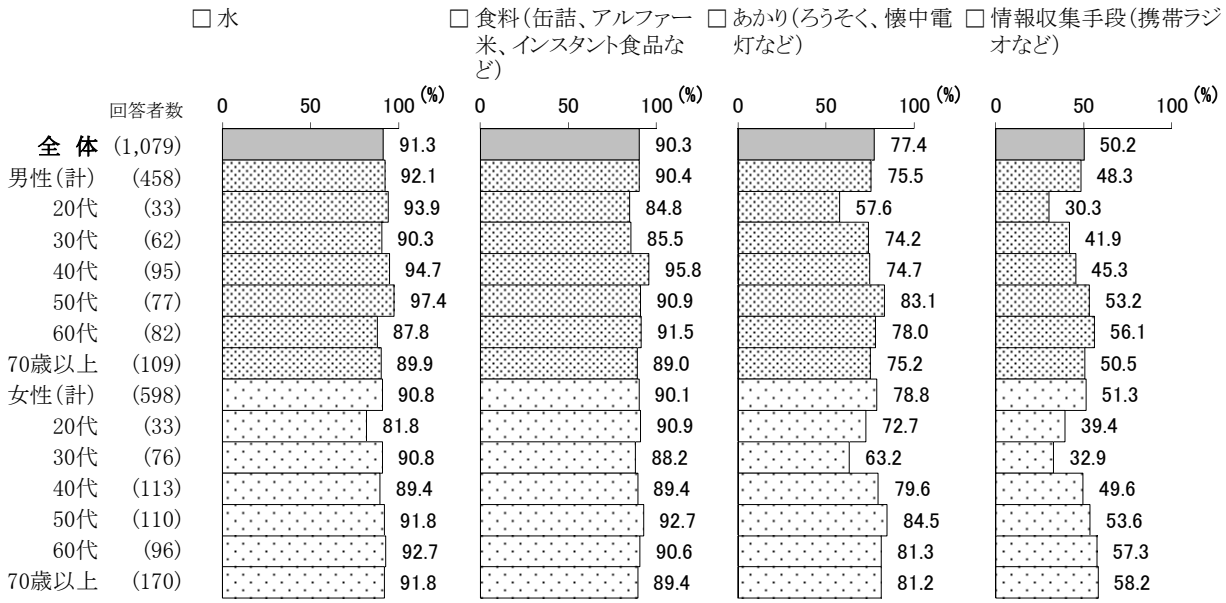
【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聞いたところ、「水」が91.3%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など)」(90.3%)、「あかり（ろうそく、懐中電灯など)」(77.4%）の順となっている。

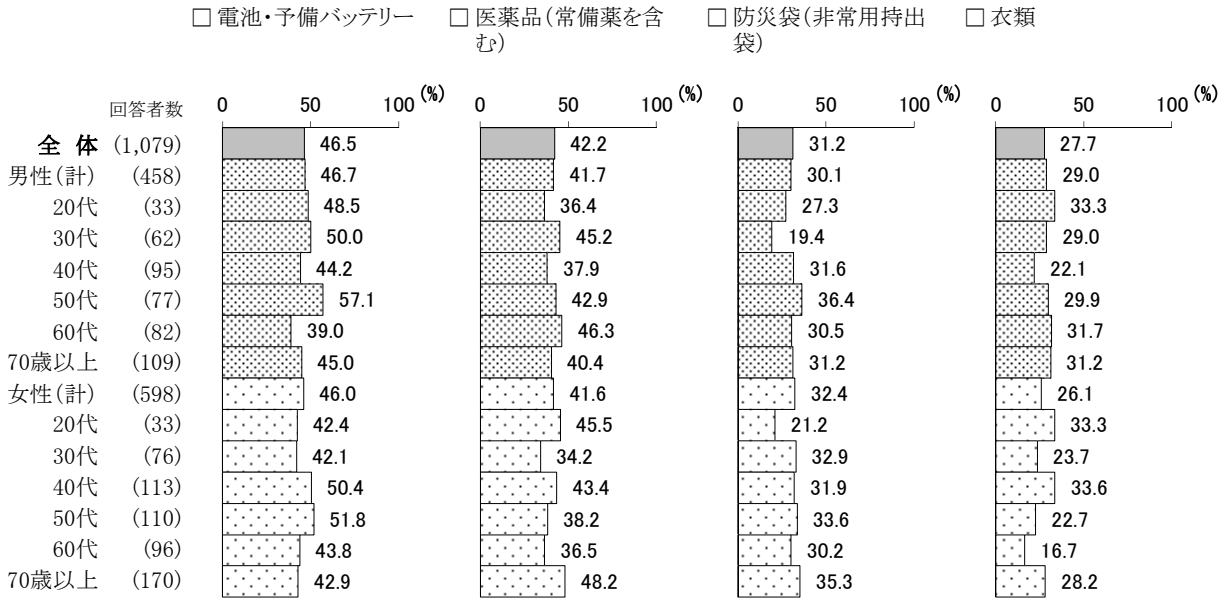
経年でみると、上位３位の順位や数値に大きな変化はみられない。

性別でみると、上位３位について、男女差はみられない。

性・年代別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」については、男女とも各年代にわたって高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」については、男女とも50代から70歳以上で、いずれも５割を超えている。

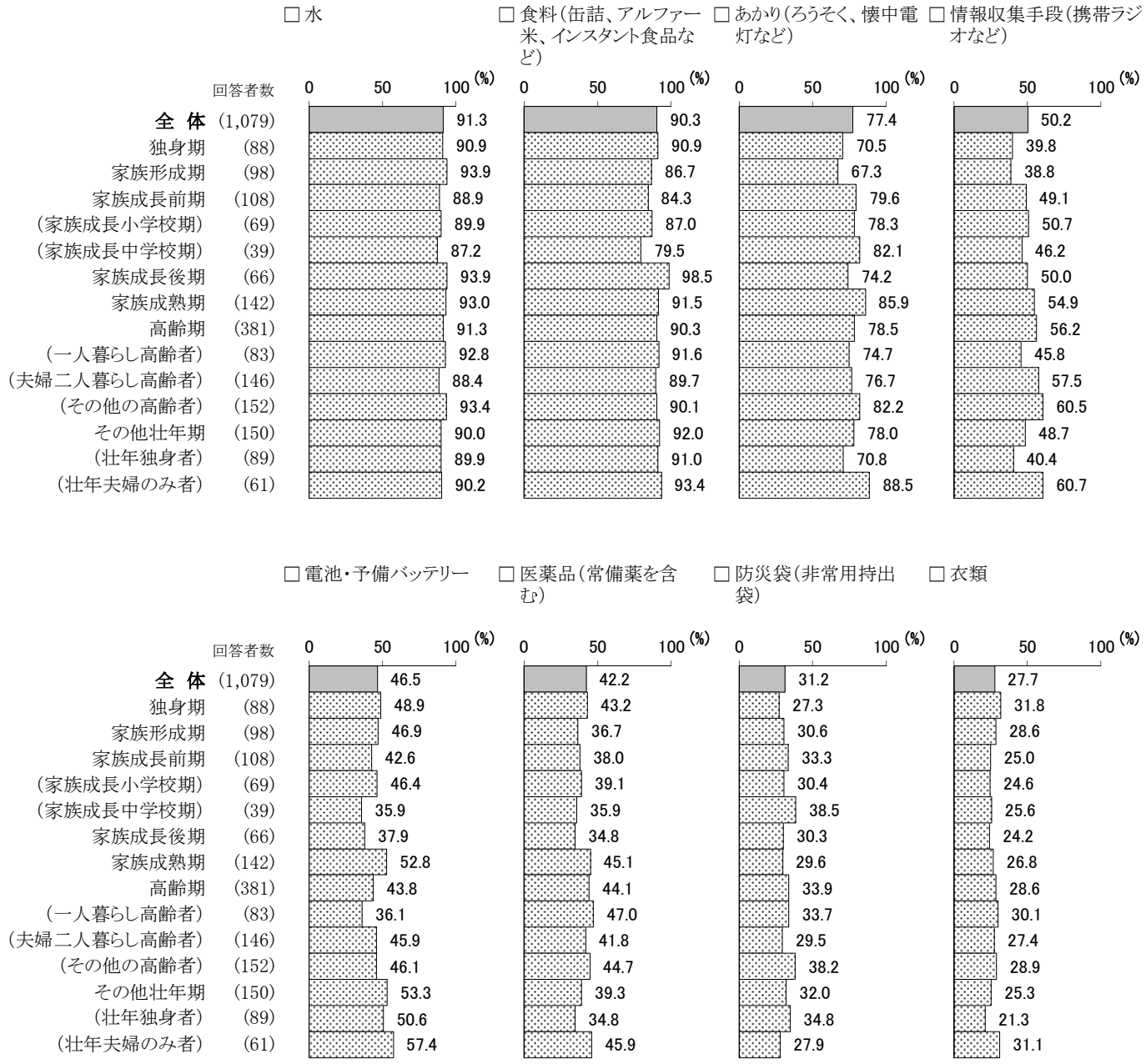
図２－２－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目





ライフステージ別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」は、各ステージを通じて高くなっている。また、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」は、家族成熟期、高齢期で５割を超えて高くなっている。

図２－２－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目

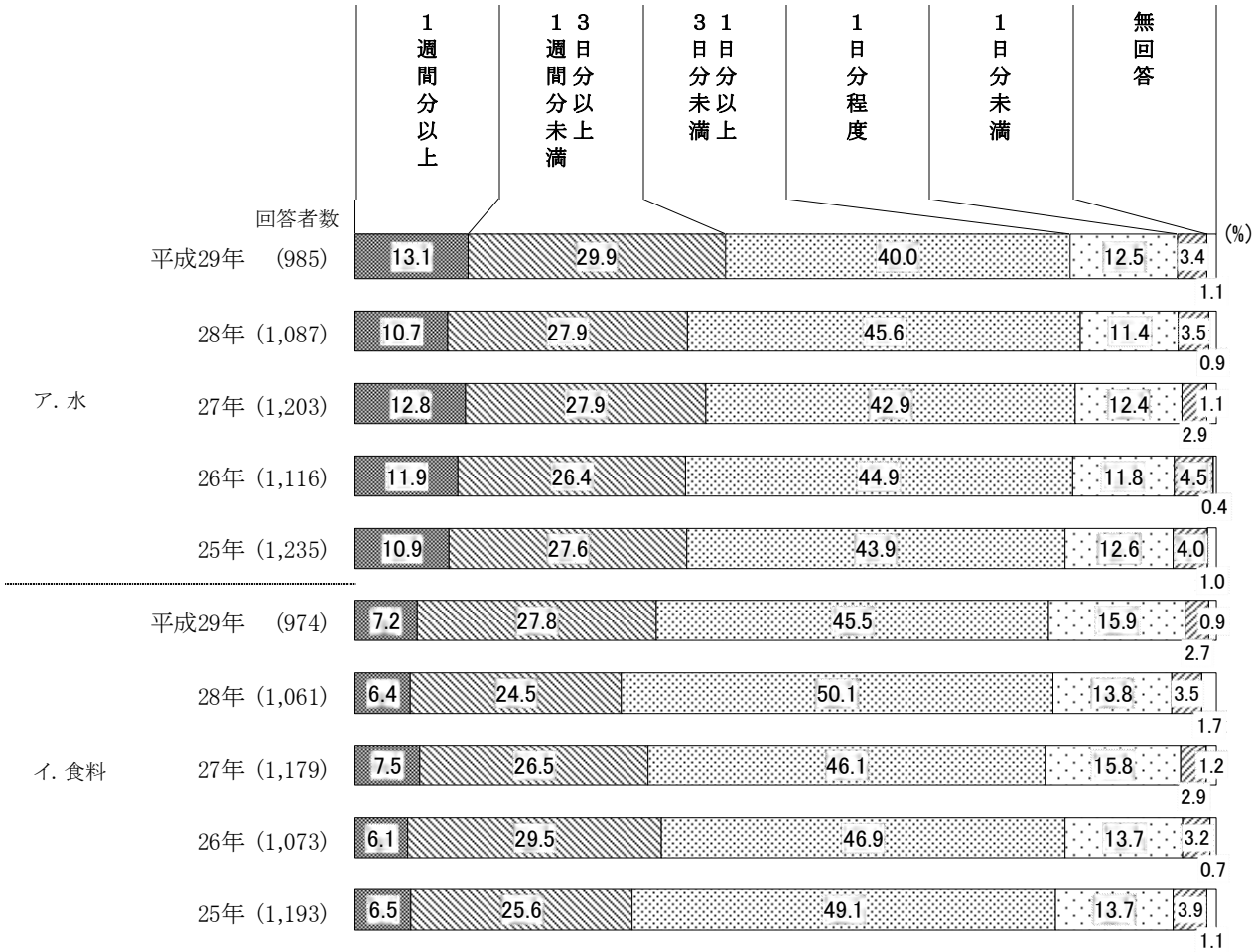


（３）備蓄量

■　〈水〉〈食料〉とも「１日分以上３日分未満」の備蓄が多いものの、割合はともに減少

> 問５－１で「１．水」、または「２．食料」とお答えの方に
>
> 問５－１－１　あなたのご家庭では備蓄の量はどれくらいありますか。
> （○はそれぞれ１つずつ）
>
> ※ 水は大人１人１日３リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図２－３－１　経年比較／備蓄量



「水」「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」を備蓄している人に、その量を聞いたところ、〈水〉については、「１日分以上３日分未満」が40.0％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（29.9％）となっている。

〈食料〉については、「１日分以上３日分未満」が45.5％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（27.8％）となっている。

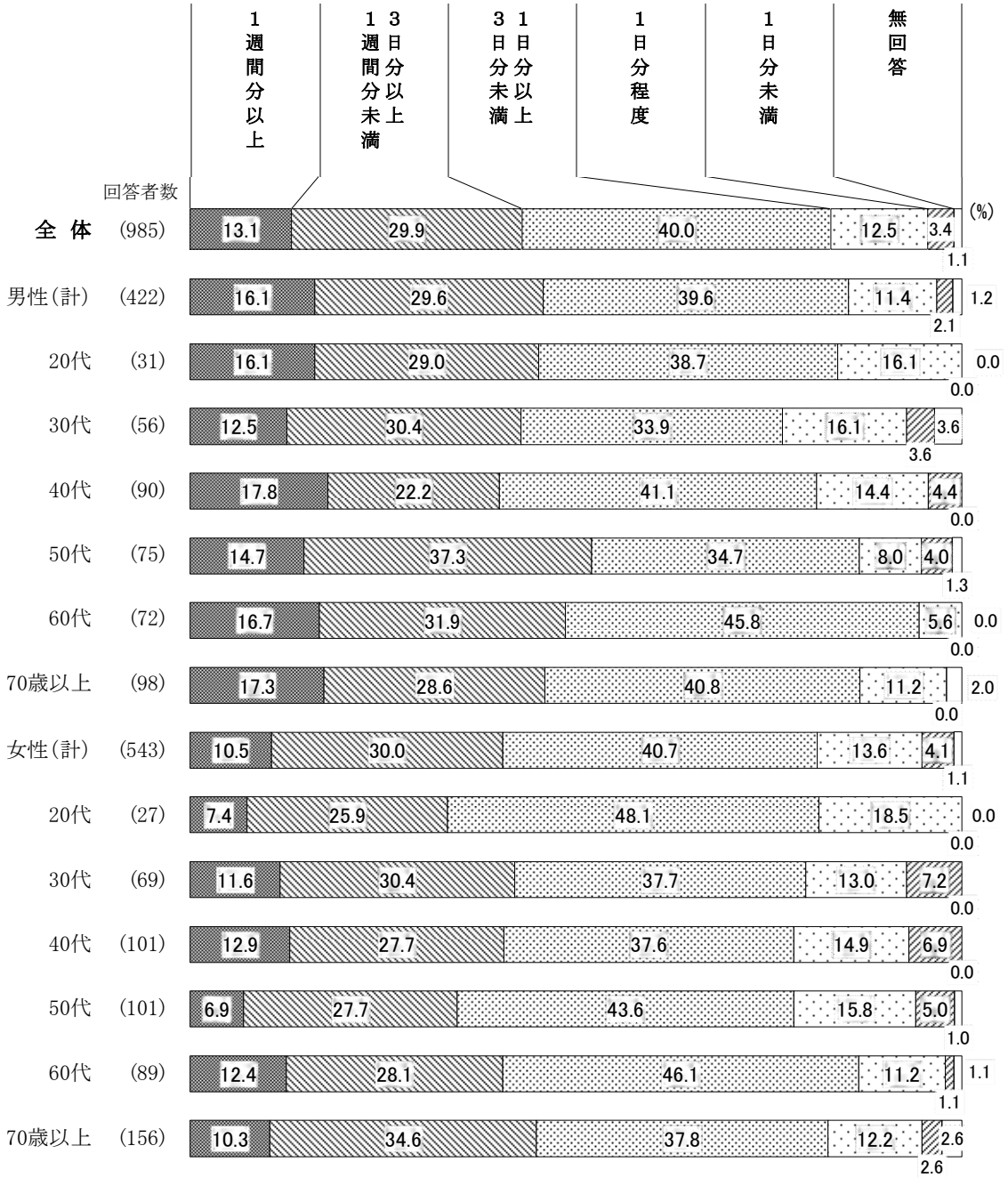
経年でみると、〈食料〉〈水〉とも「１日分以上３日分未満」が減少している。

水の備蓄量を性別でみると、男性では「１週間分以上」が16.1％と、女性（10.5％）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では、50代を除く各年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

女性では、全年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

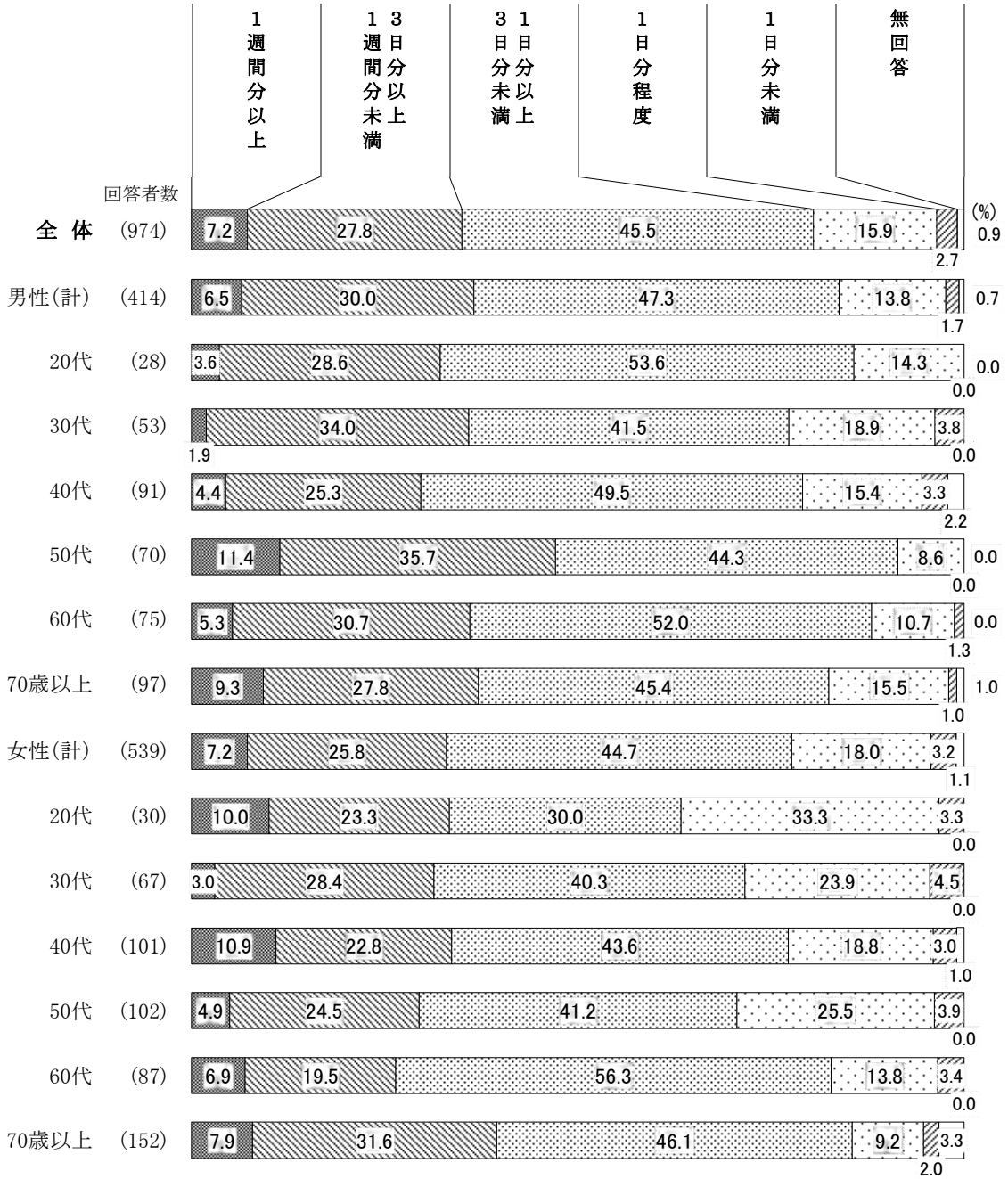
図２－３－２－①　性別、性・年代別／備蓄量／水



食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

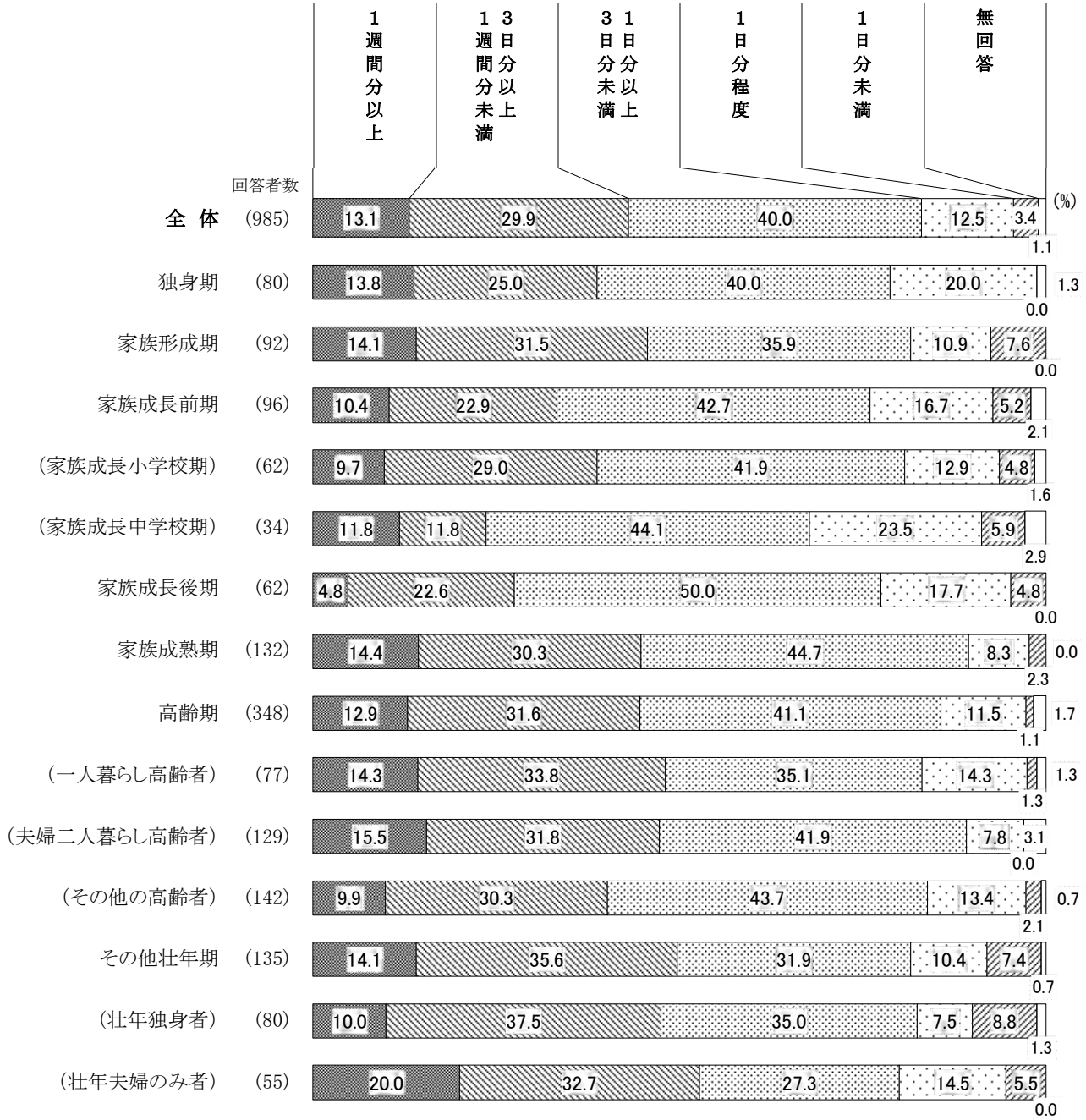
性・年代別でみると、男女とも、全年代で「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－２－②　性別、性・年代別／備蓄量／食料



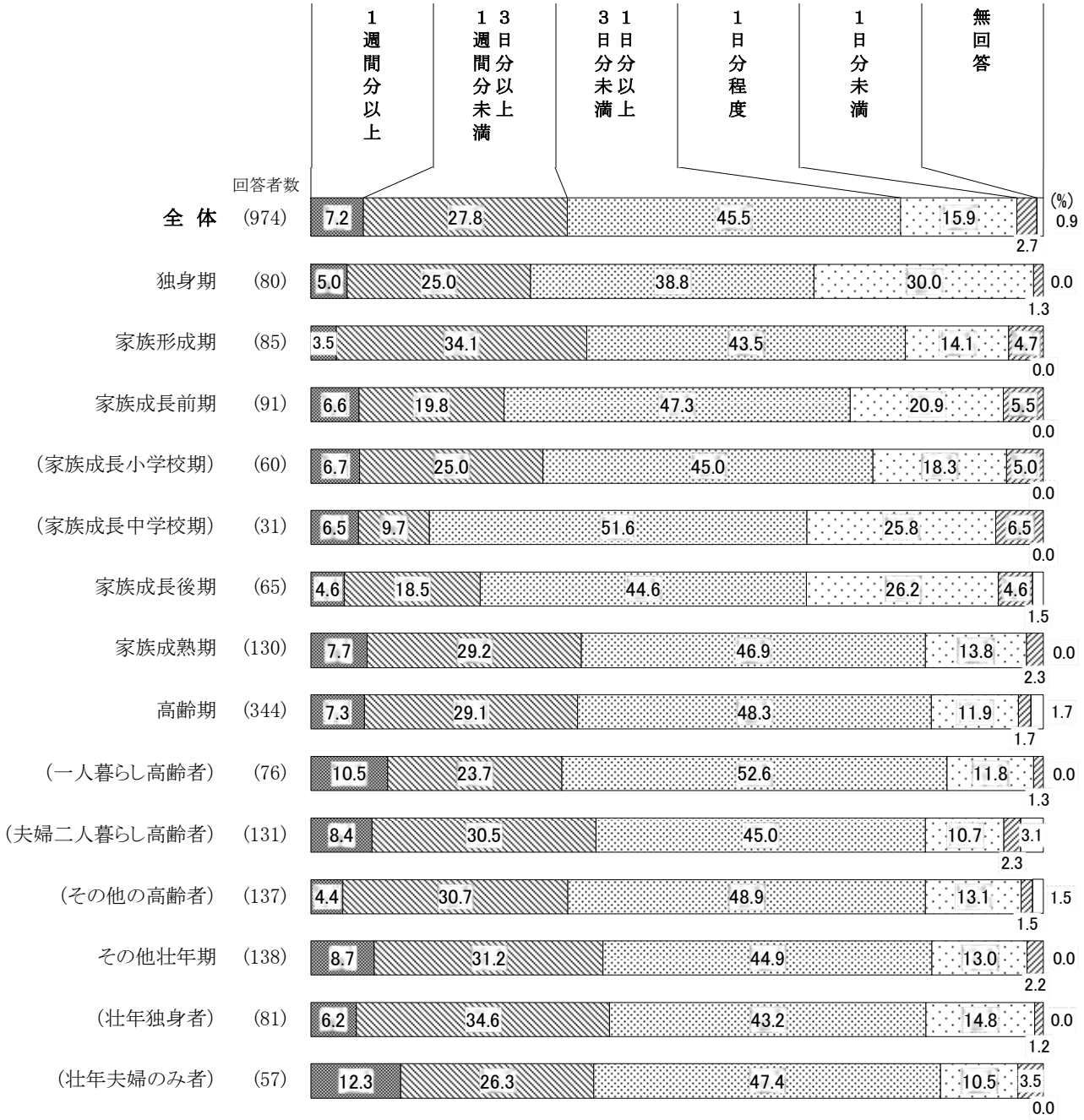
水の備蓄量をライフステージ別でみると、その他壮年期を除くステージで「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－３－①　ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をみると、全ステージで「１日分以上３日分未満」が「３日分以上１週間分未満」を上回っている。

図２－３－３－②　ライフステージ別／備蓄量／食料

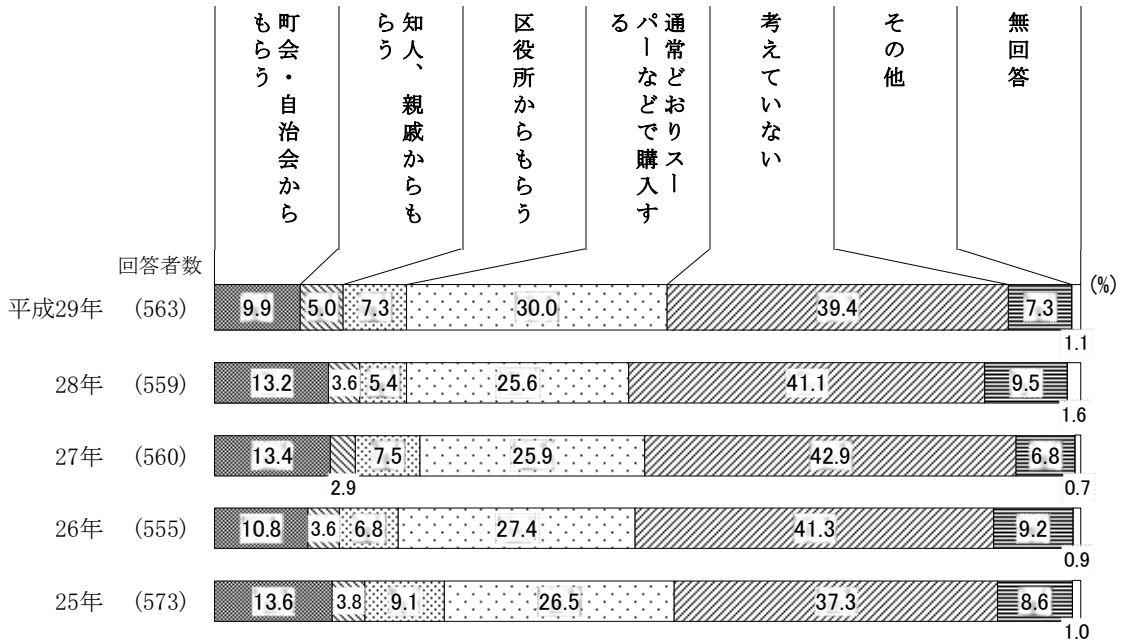


（４）災害発生時の水や食料の確保

■ 「考えていない」が最も高くなっているも、“スーパーなどで購入”が３割

問６は、問５で「３．特に用意していない」とお答えの方におうかがいいたします 問６　災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか（○は１つだけ）。

図２－４－１　経年比較／災害発生時の水や食料の確保



【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が30.0％で最も高く、次いで「町会・自治会からもらう」（9.9％）となっている。一方、「考えていない」が39.4％を占めている。

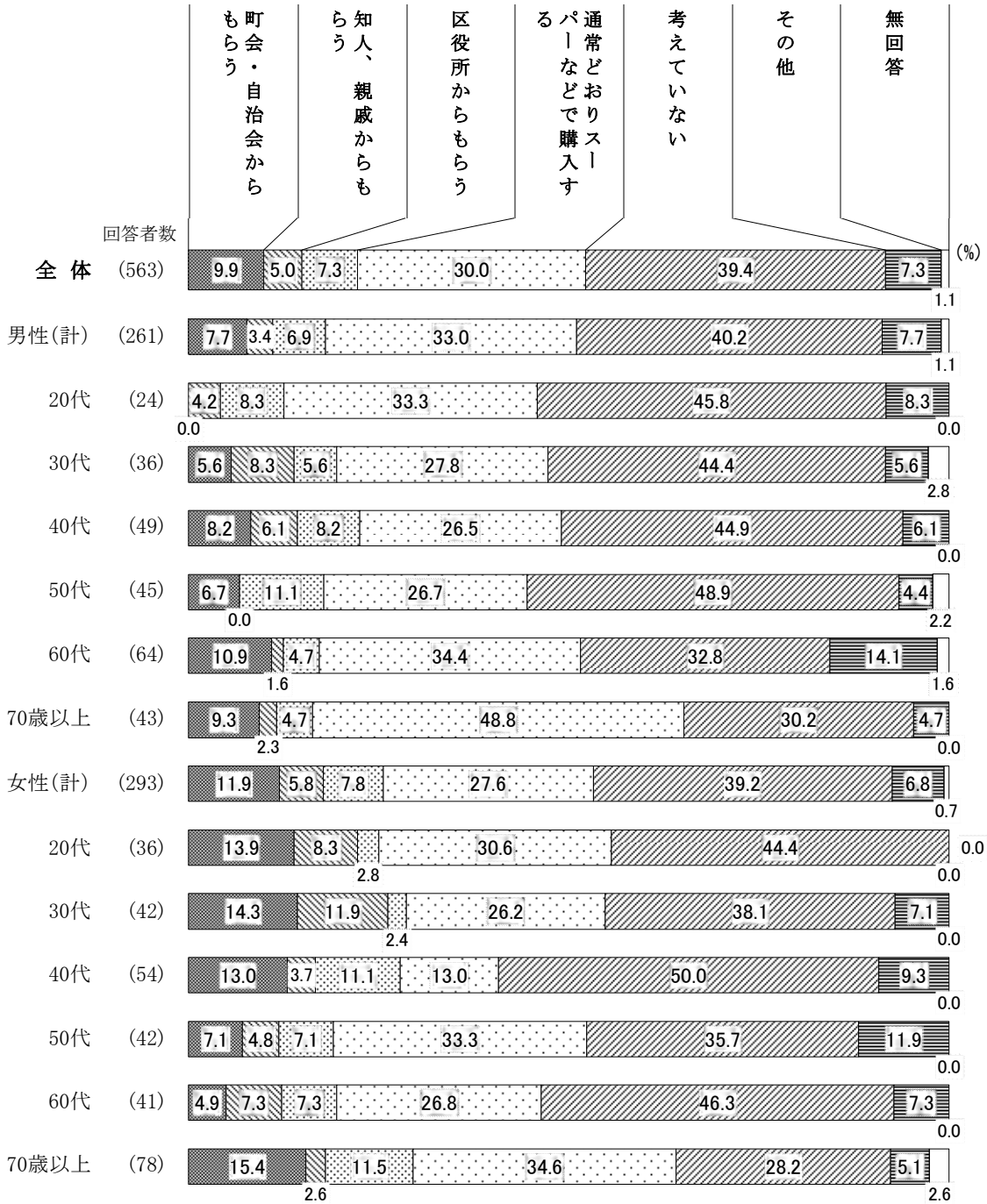
経年でみると、今回「通常どおりスーパーなどで購入する」が増加している。

性別でみると、男性では「通常どおりスーパーなどで購入する」が33.0％と、女性（27.6％）より高くなっている。

性・年代別でみると、男性の場合、20代から50代で「考えていない」が４割を超えている。また、70歳以上では「通常どおりスーパーなどで購入する」が48.8％と、他の年代より高くなっている。

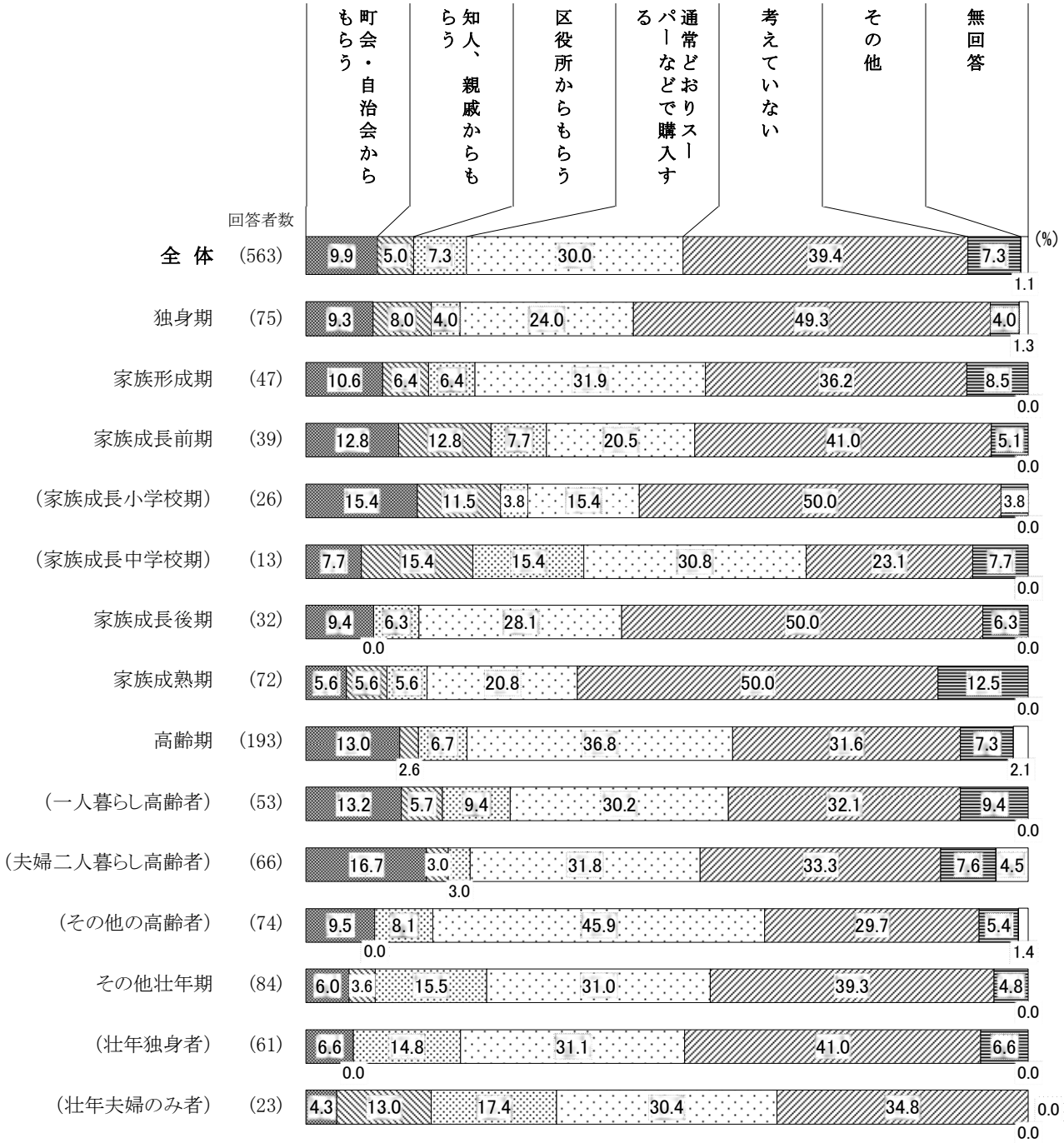
女性の場合、40代で「考えていない」が50.0％を占めているほか、20代、60代でも４割を超えている。

図２－４－２　性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



ライフステージ別でみると、独身期、家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期では「考えていない」が、いずれも４割を超えている。また、高齢期では「通常どおりスーパーなどで購入する」が36.8%を占めている。

図２－４－３　ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保

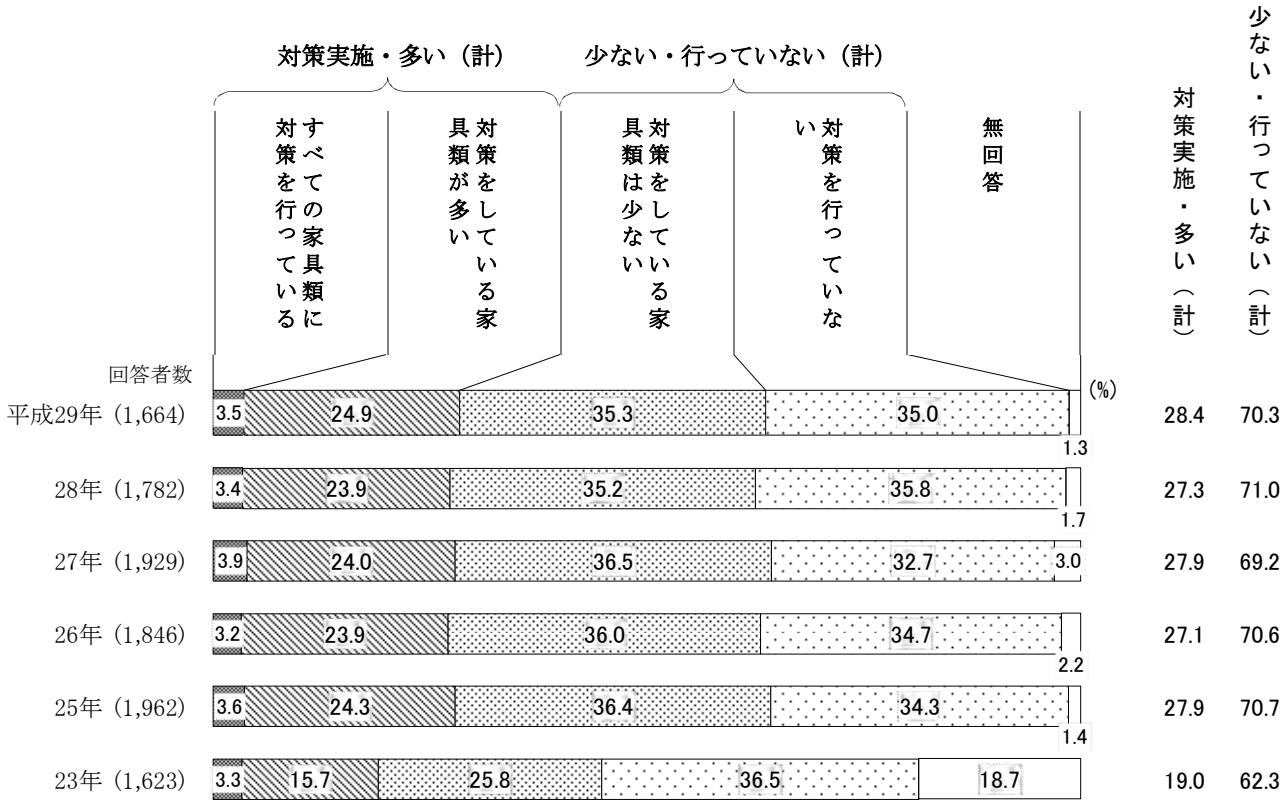


（５）家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策をしていない方が７割を超える

問７　あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は１つだけ）。
※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図２－５－１　経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



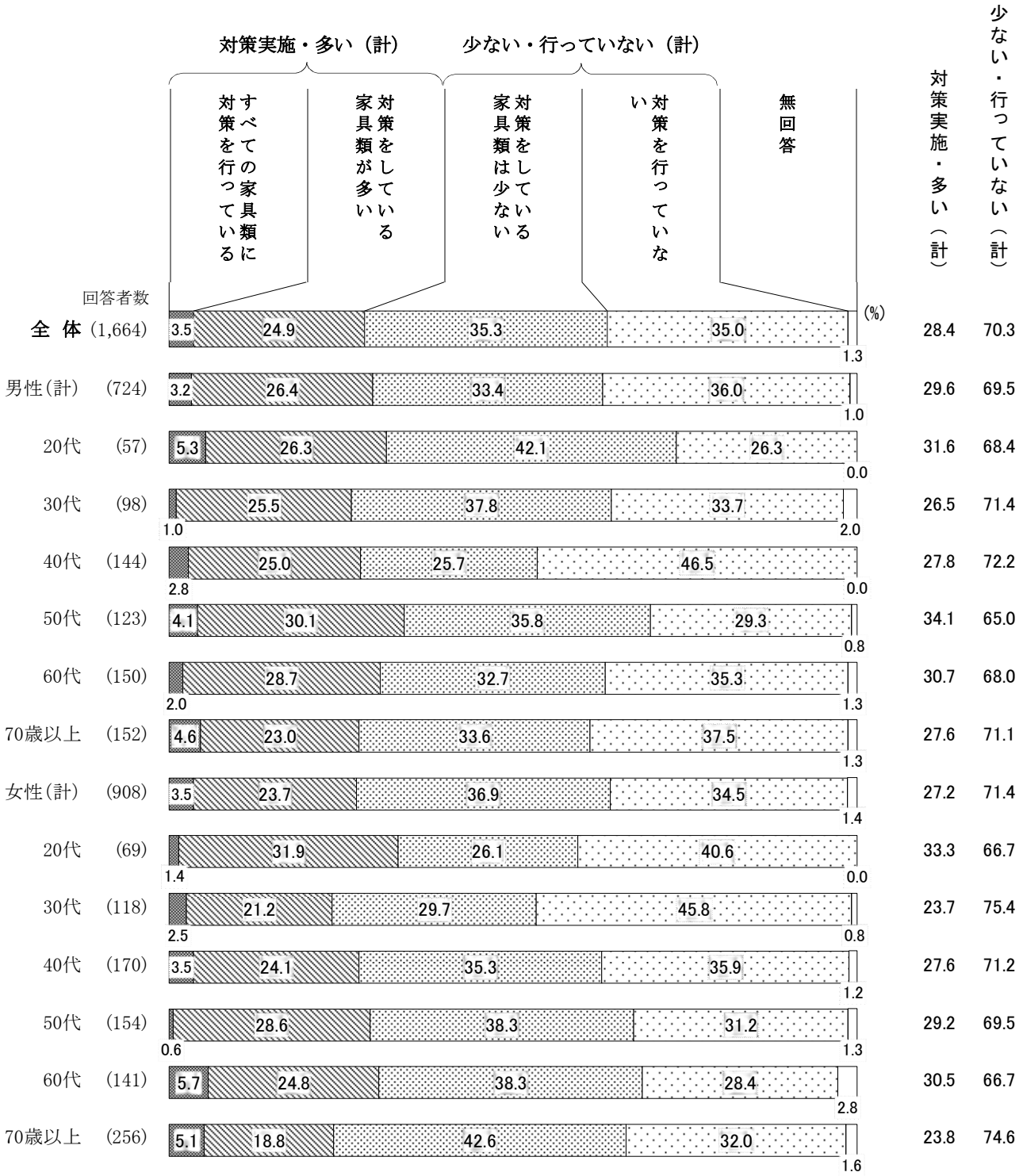
家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は3.5％で、これに「対策をしている家具類が多い」の24.9％を合わせた【対策実施・多い】が28.4％となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は35.3％、「対策を行っていない」は35.0％となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は、平成25年以降横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】も、平成25年以降ほぼ横ばいとなっている。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

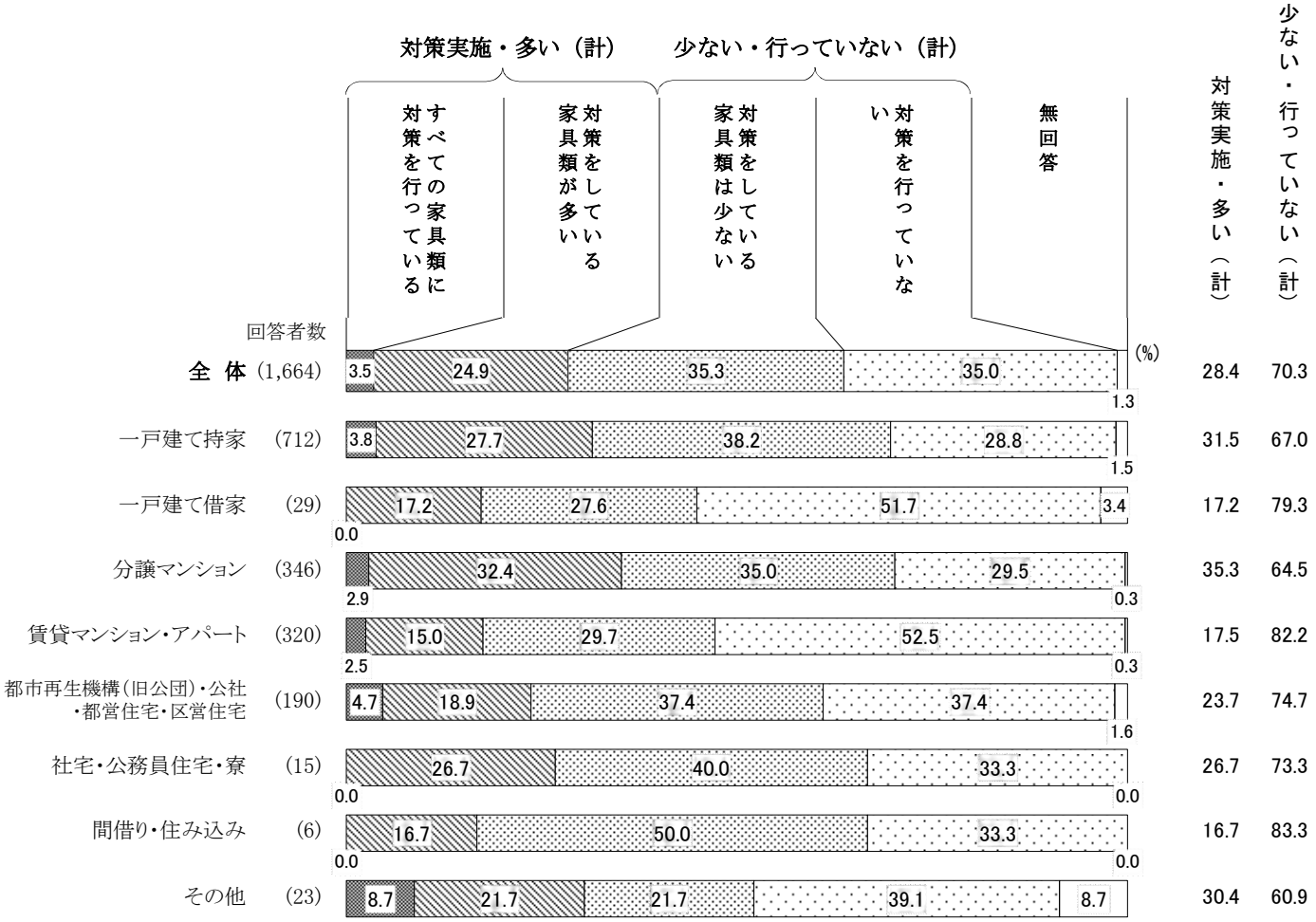
性・年代別でみると、男性では、20代、50代、60代で【対策実施・多い】が３割を超えている。女性でも、20代、50代、60代で【対策実施・多い】が３割前後となっている。

図２－５－２　性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別でみると、分譲マンションでは【対策実施・多い】が35.3％と高くなっているほか、一戸建て持家でも31.5％を占めている。一方、賃貸マンション・アパートでは【少ない・行っていない】が82.2％と高くなっている。

図２－５－３　住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



（６）対策をしていない理由

■ 「面倒である」が、最も高いのは変わらず

問７で「３．対策をしている家具類は少ない」、または「４．対策を行っていない」とお答えの方に 問７―１　どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。

図２－６－１－①　経年比較／対策をしていない理由

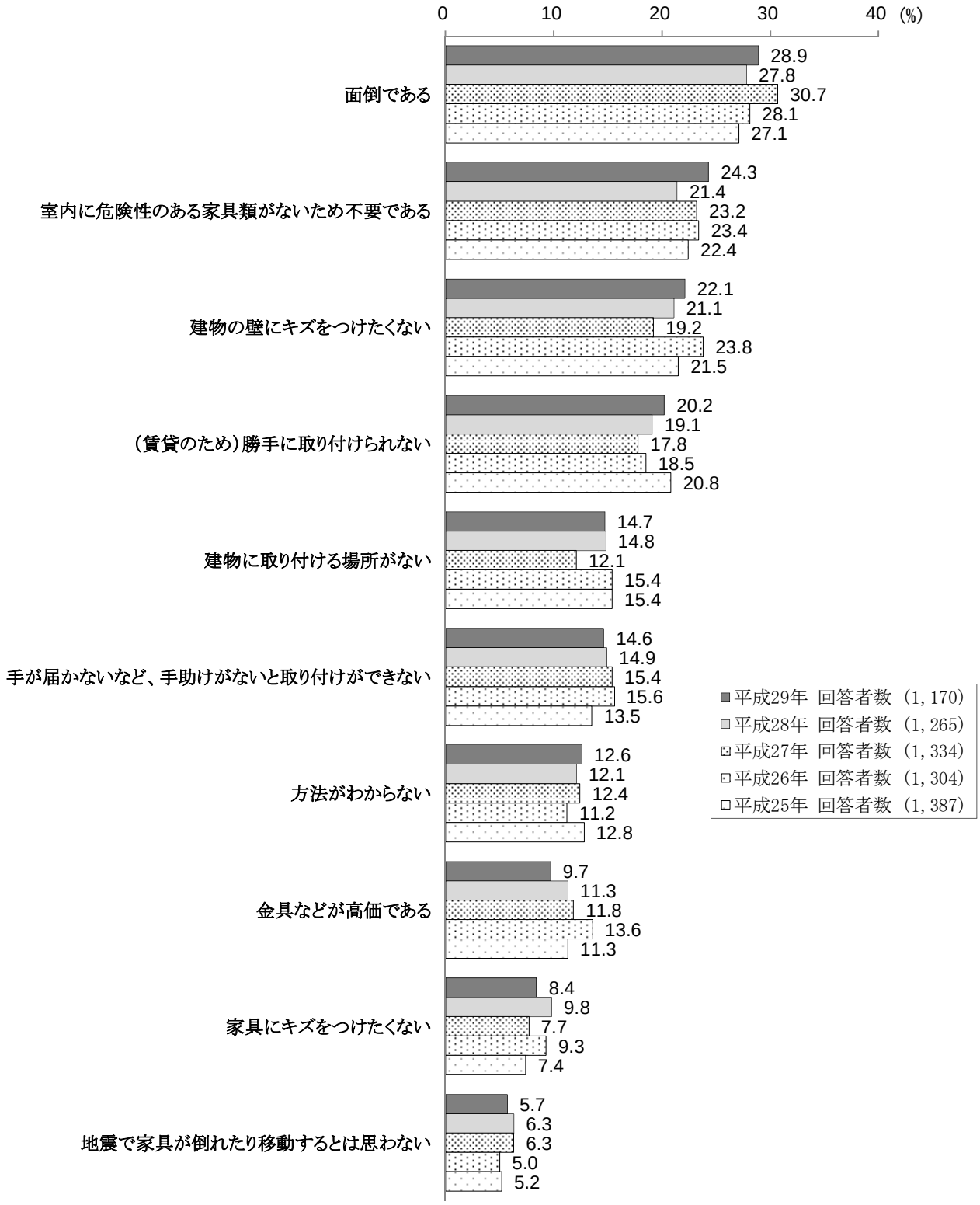
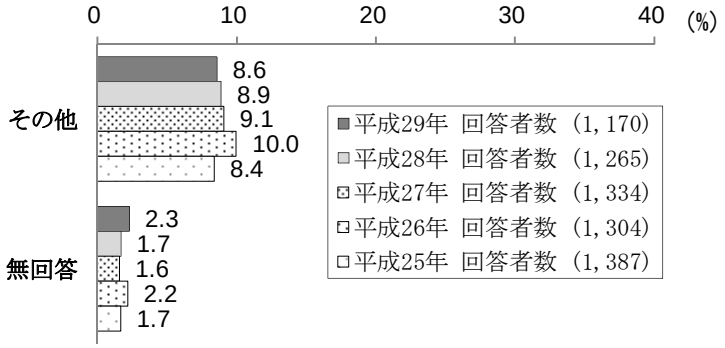


図２－６－１－②　経年比較／対策をしていない理由

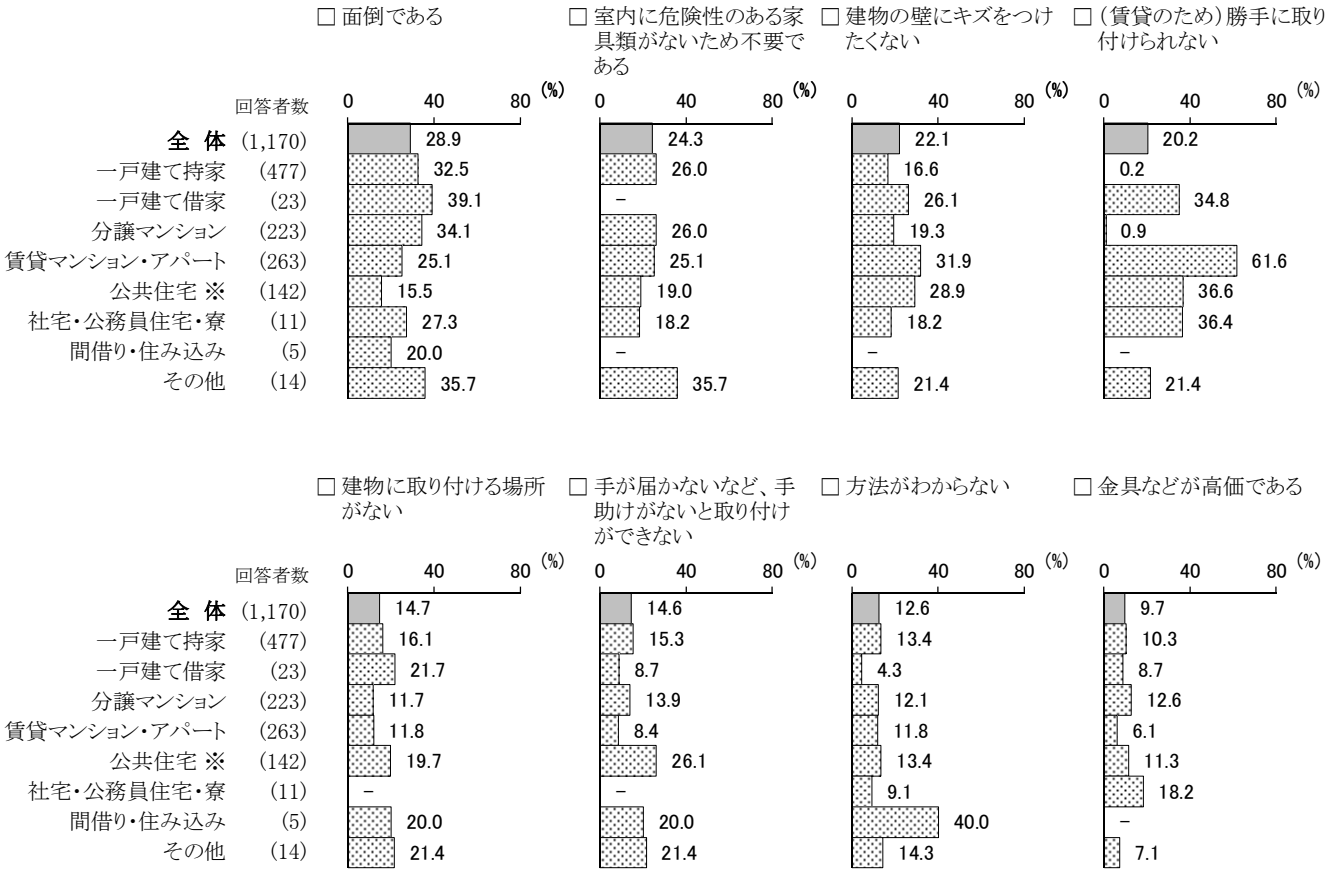


【少ない・行っていない】という人に、その理由を聞いたところ、「面倒である」が28.9%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」（24.3%）、「建物の壁にキズをつけたくない」（22.1%）、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（20.2%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位、数値に大きな変化はみられない。

住居形態別でみると、一戸建て借家では「面倒である」が39.1％を占めているほか、一戸建て持家、分譲マンションも３割を超えている。一方、賃貸マンション・アパートでは「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」が61.6％を占めている。

図２－６－２　住居形態別／対策をしていない理由／上位８項目



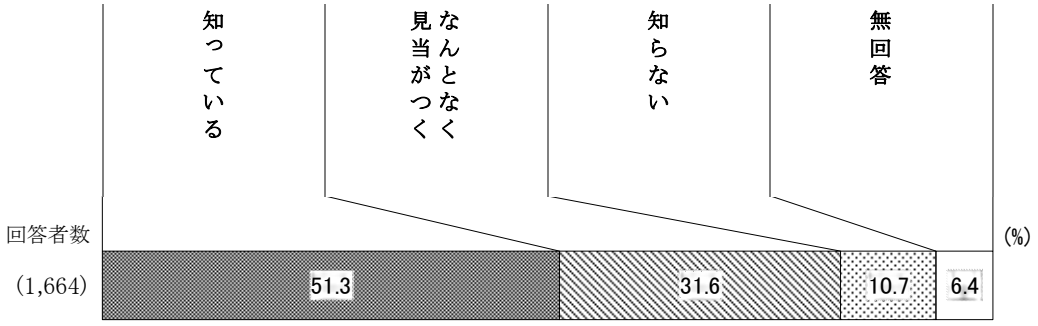
※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

（７）地域の避難場所の認知

■ 「知っている」が５割を超える

問８　大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は１つだけ）。

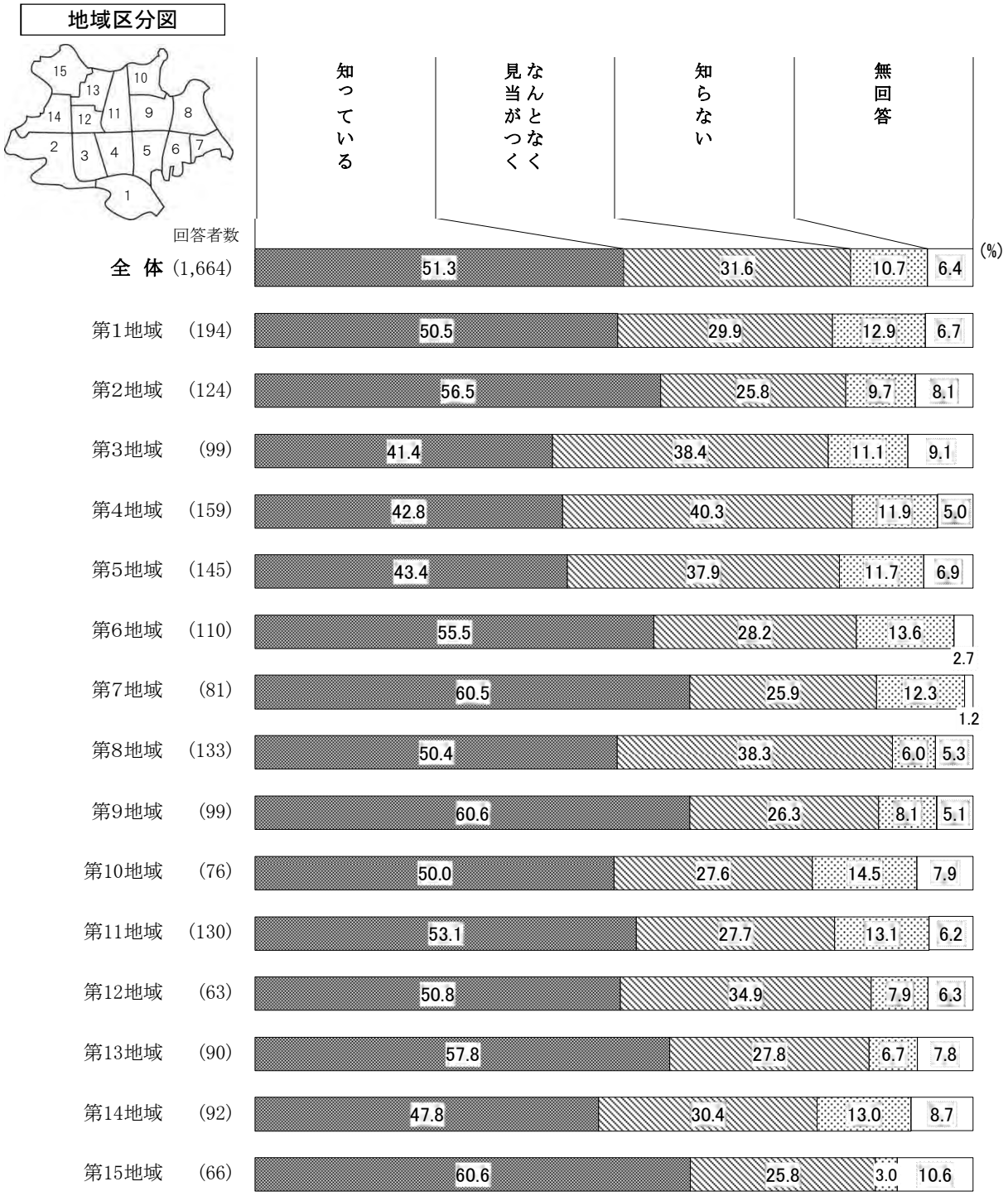
図２－７－１　地域の避難場所の認知



地域の避難場所に認知状況をみると、「知っている」が51.3%、「なんとなく見当がつく」が31.6%となっている。一方、「知らない」は10.7%となっている。

地域別でみると、第７地域、第９地域、第15地域では「知っている」が６割を超え、他の地域より高くなっている。

図２－７－２　地域別／地域の避難場所の認知



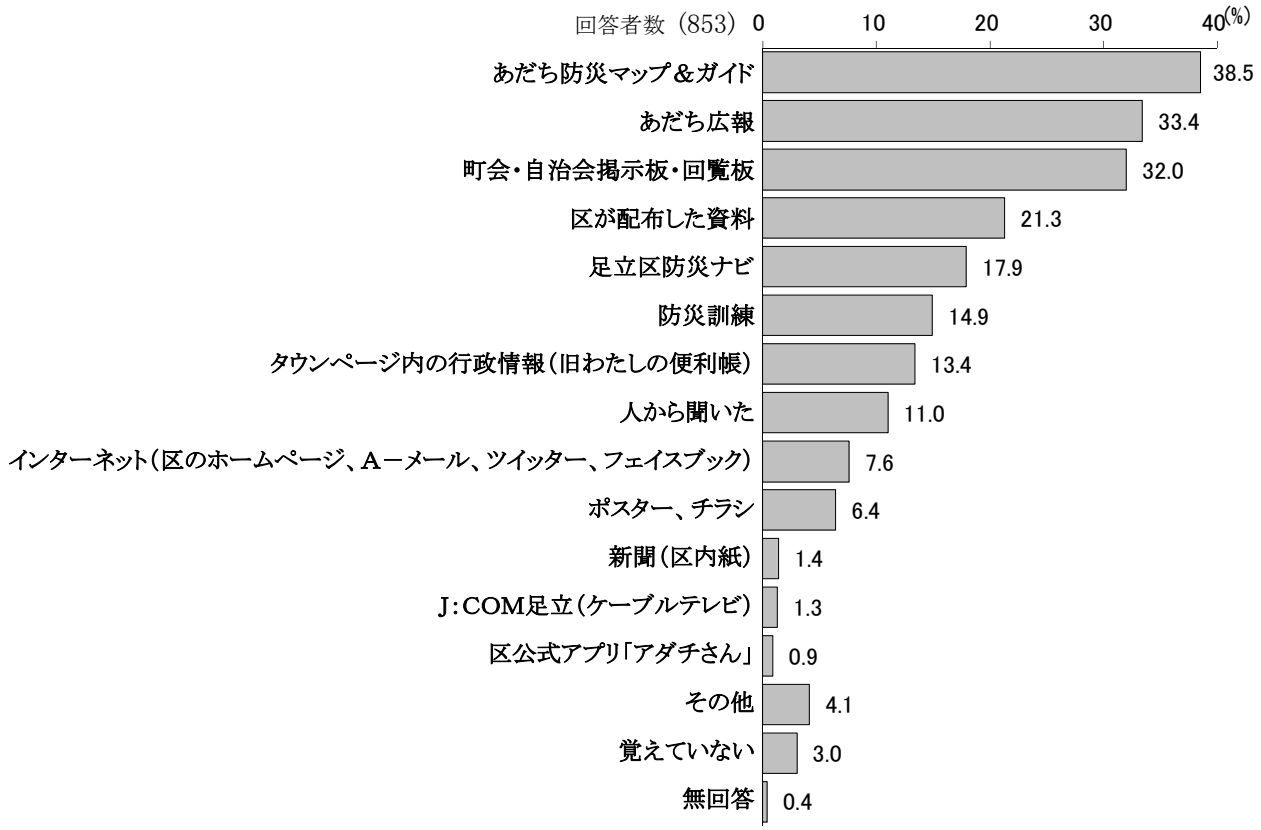
（８）避難場所の認知経路

■ “防災マップ＆ガイド”“広報”“掲示板・回覧板”が３割台

（問８で「１．知っている」とお答えの方に）

問８－１　避難場所をどのように知りましたか（○はあてはまるものすべて）。

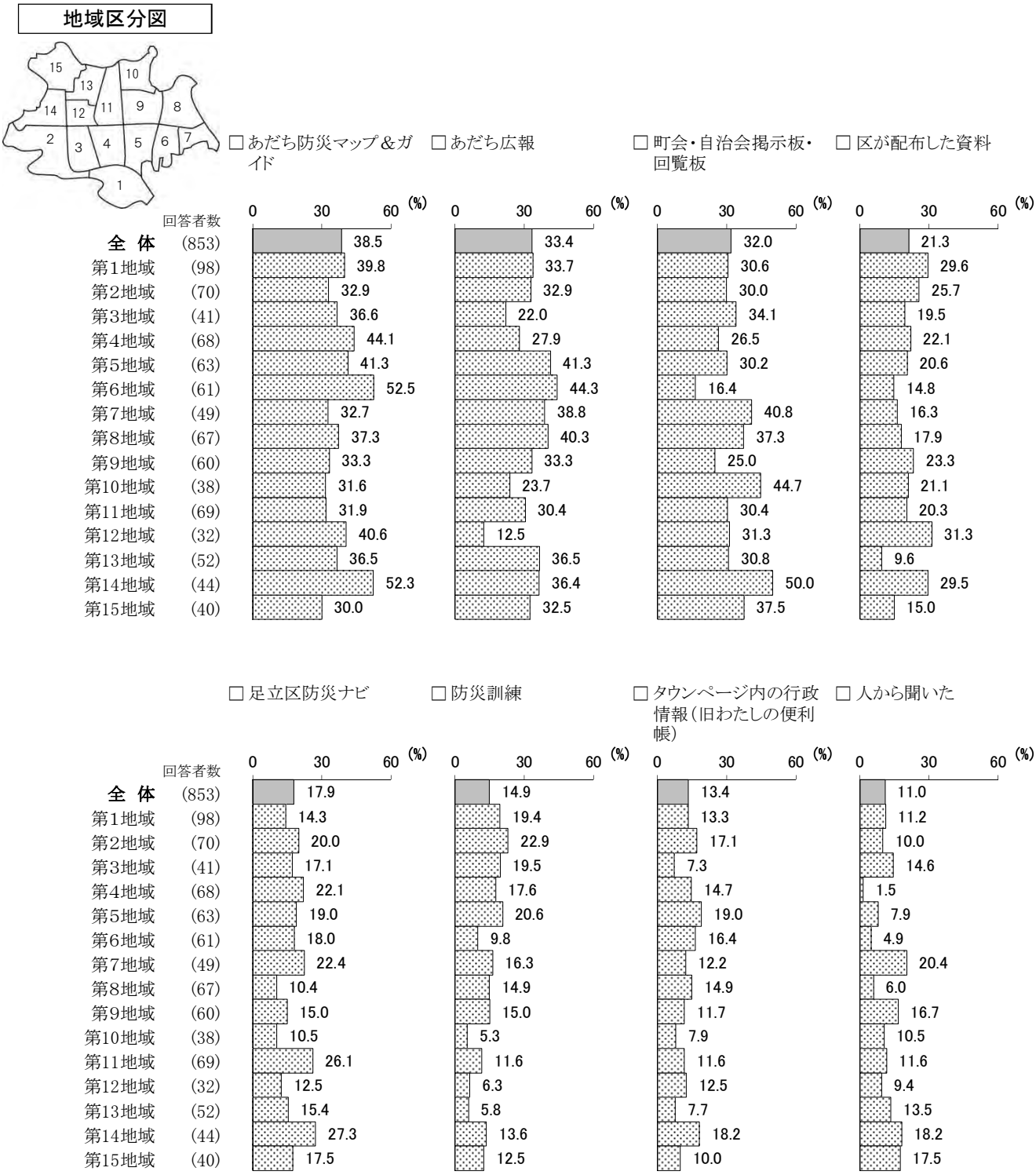
図２－８－１　避難場所の認知経路



地域の避難場所を認知している人について、その認知経路をみると、「あだち防災マップ＆ガイド」が38.5％で最も高く、以下「あだち広報」（33.4％）、「町会・自治会掲示板・回覧板」（32.0％）の順となっている。

地域別でみると、第６地域、第14地域では「あだち防災マップ＆ガイド」がそれぞれ52.5%、52.3%と、他の地域より高くなっている。また、第14地域では「町会・自治会掲示板・回覧板」も50.0%と高くなっている。

図２－８－２　地域別／避難場所の認知経路／上位８項目

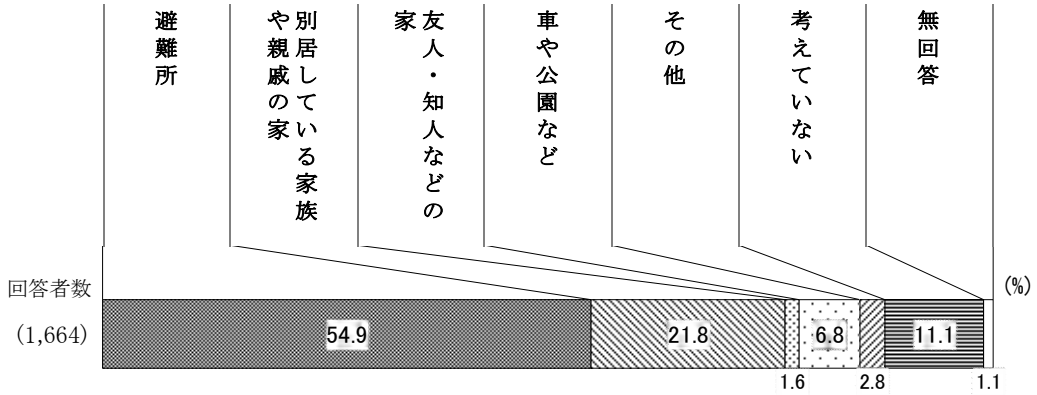


（９）大規模災害時の避難生活場所

■ 「避難所」が５割台半ば

問９　大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は１つだけ）。

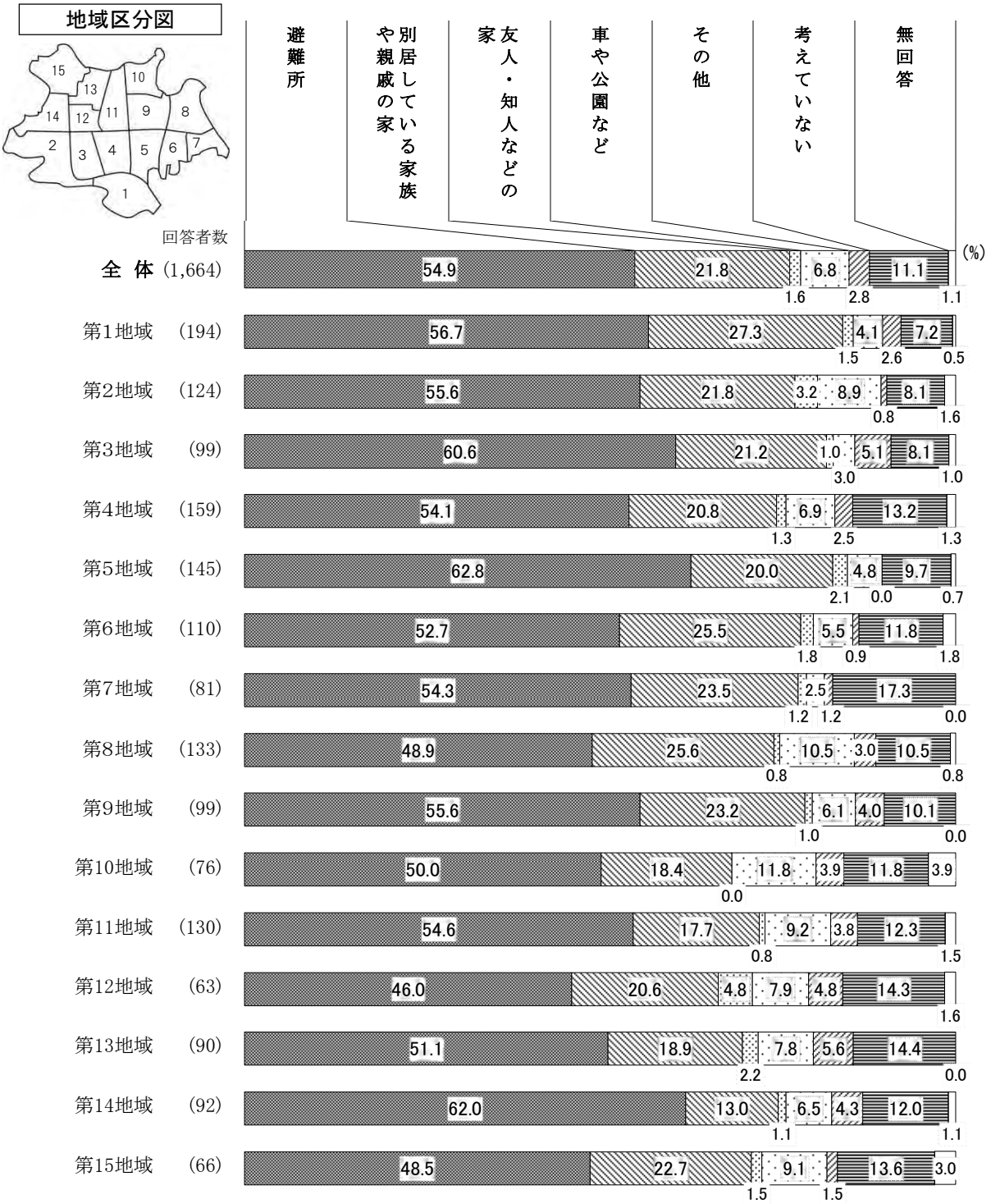
図２－９－１　大規模災害時の避難生活場所



大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が54.9％で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」が21.8％となっている。

地域別でみると、第３地域、第５地域、第14地域では「避難所」が、いずれも６割を超えている。

図２－９－２　地域別／大規模災害時の避難生活場所



（１０）大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ 上位３項目は変わらずも、“衛生対策の充実”が６割を超える

問10　あなたが大地震の際の防災対策として足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（○は５つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

図２－１０－１－①　経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

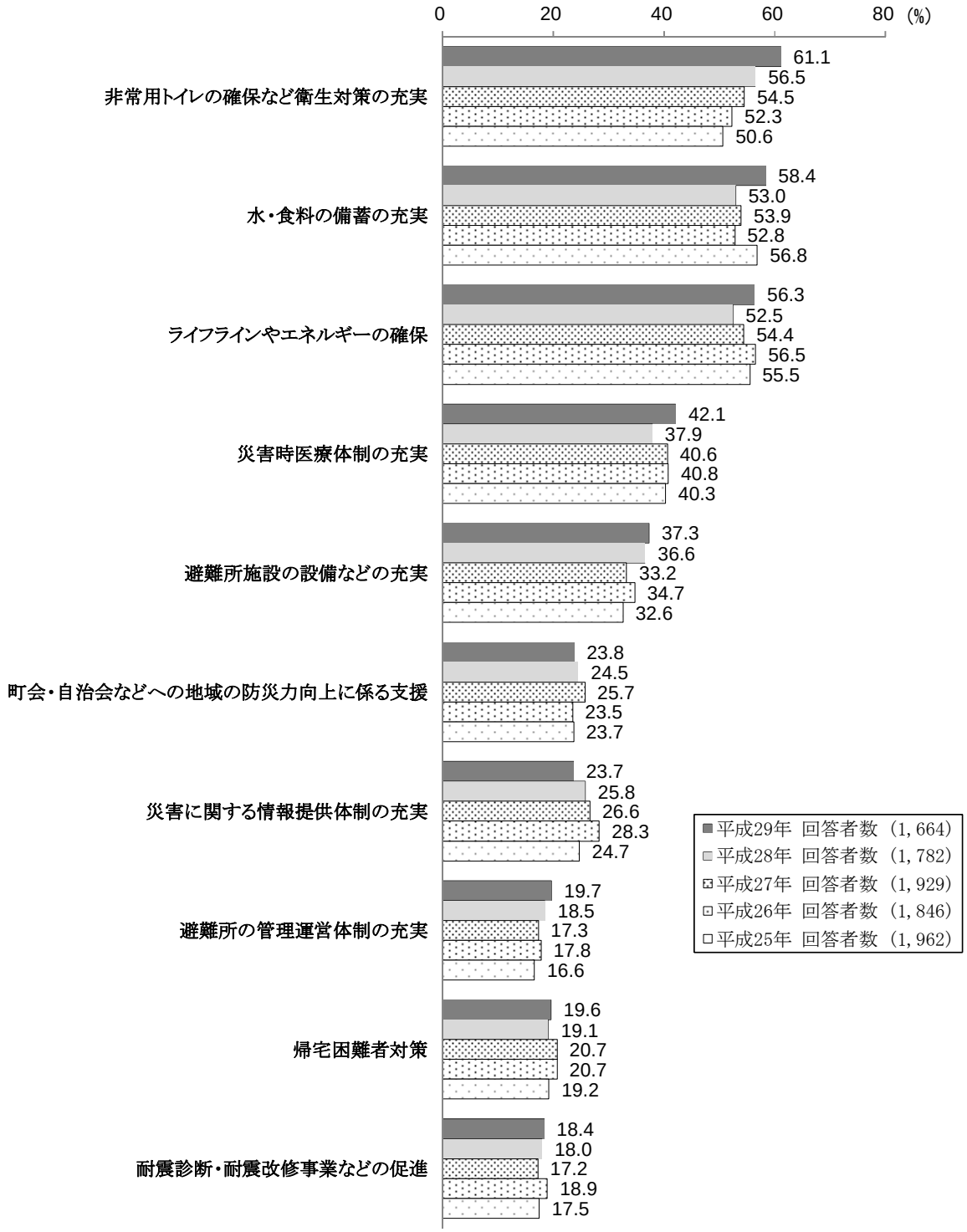
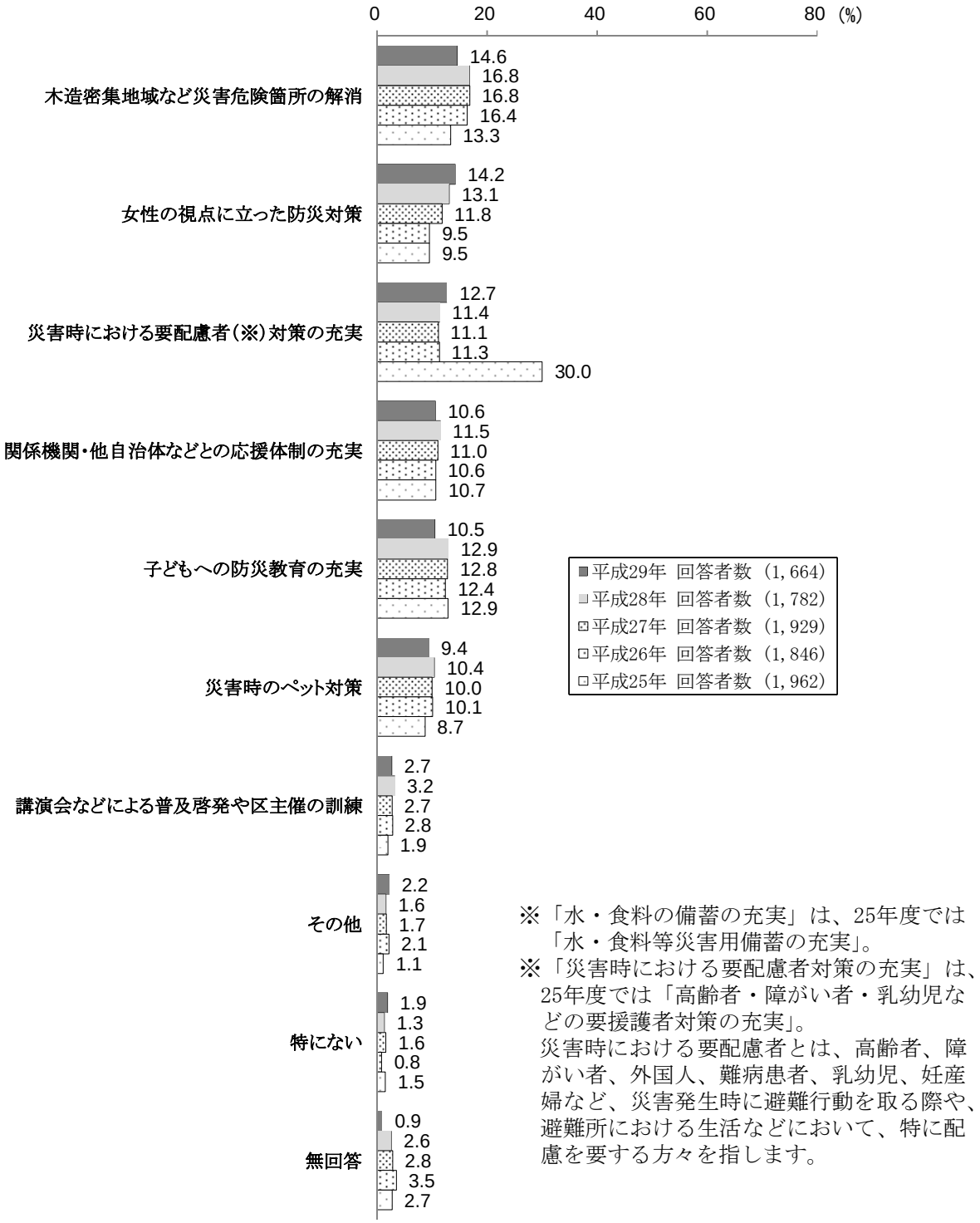


図２－１０－１－②　経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



大地震の防災対策として力を入れてほしいことは「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」（61.1%）、「水・食料の備蓄の充実」（58.4%）、「ライフラインやエネルギーの確保」（56.3%）、の３項目が、とくに高くなっている。

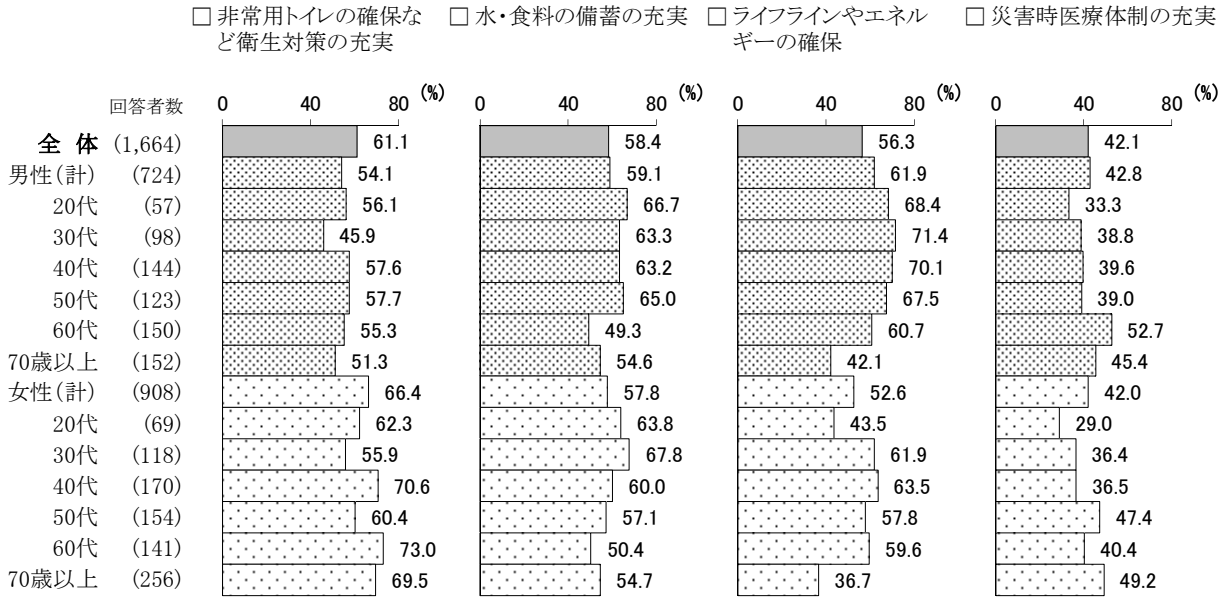
経年でみると、上位３項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

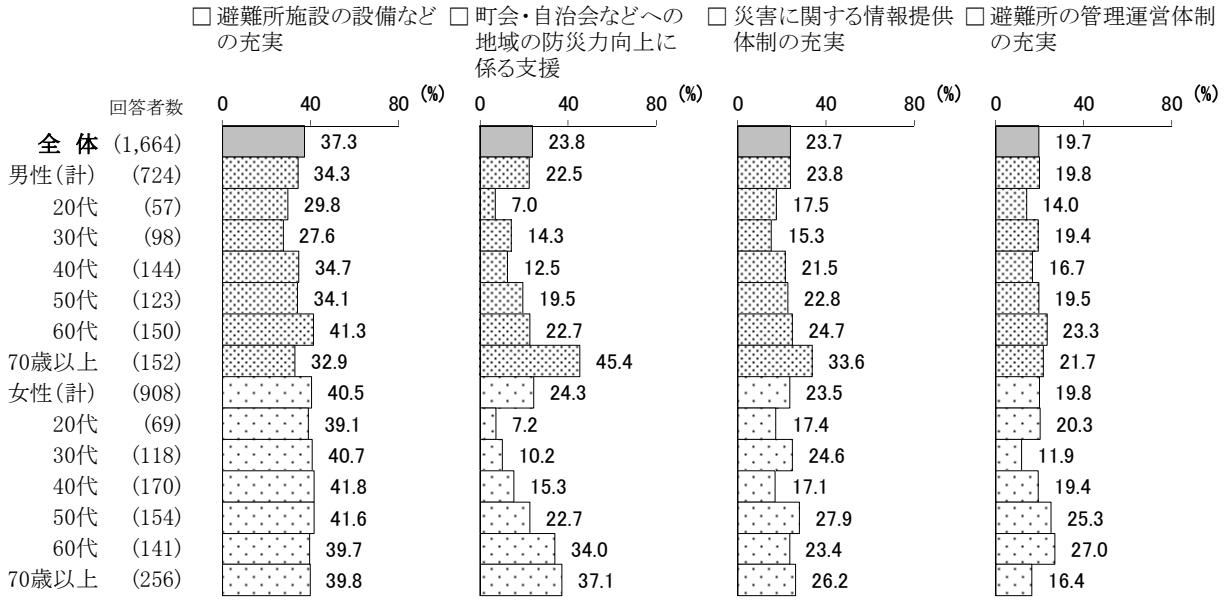
性別でみると、男性では「ライフラインやエネルギーの確保」が61.9％と、女性（52.6％）より高くなっている。一方、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が66.4％と、男性（54.1％）を上回っている。

性・年代別でみると、男性では「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、30代を除く各年代で５割を超えている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代、40代で７割を超えている。

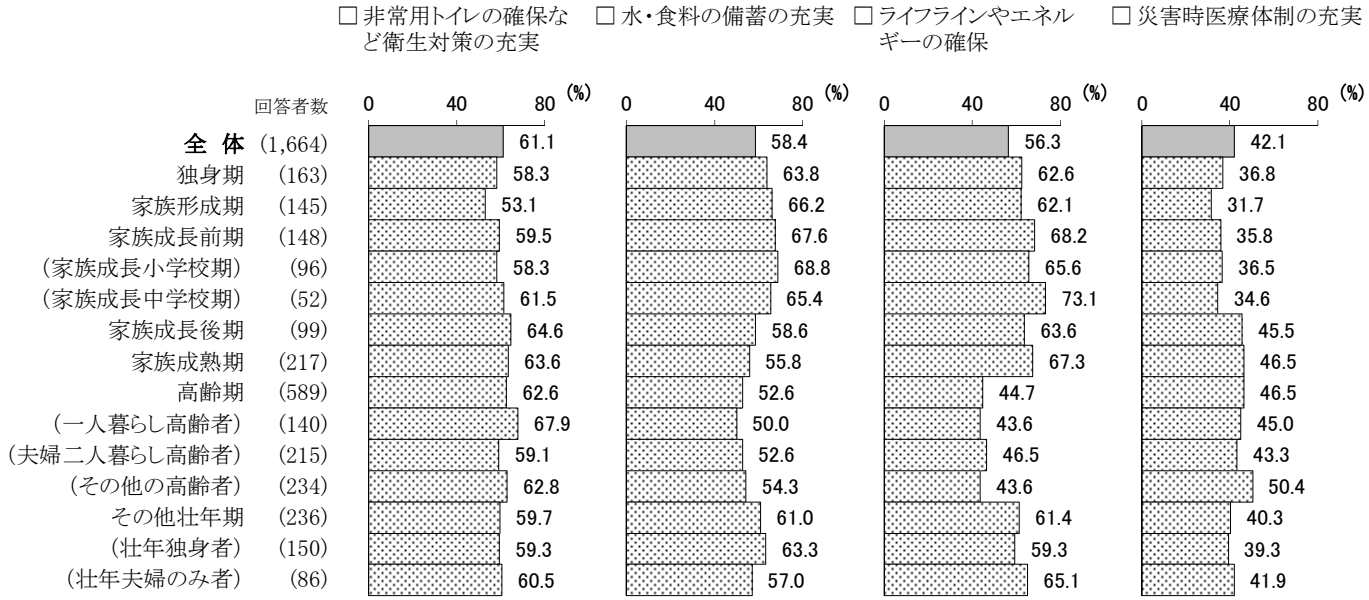
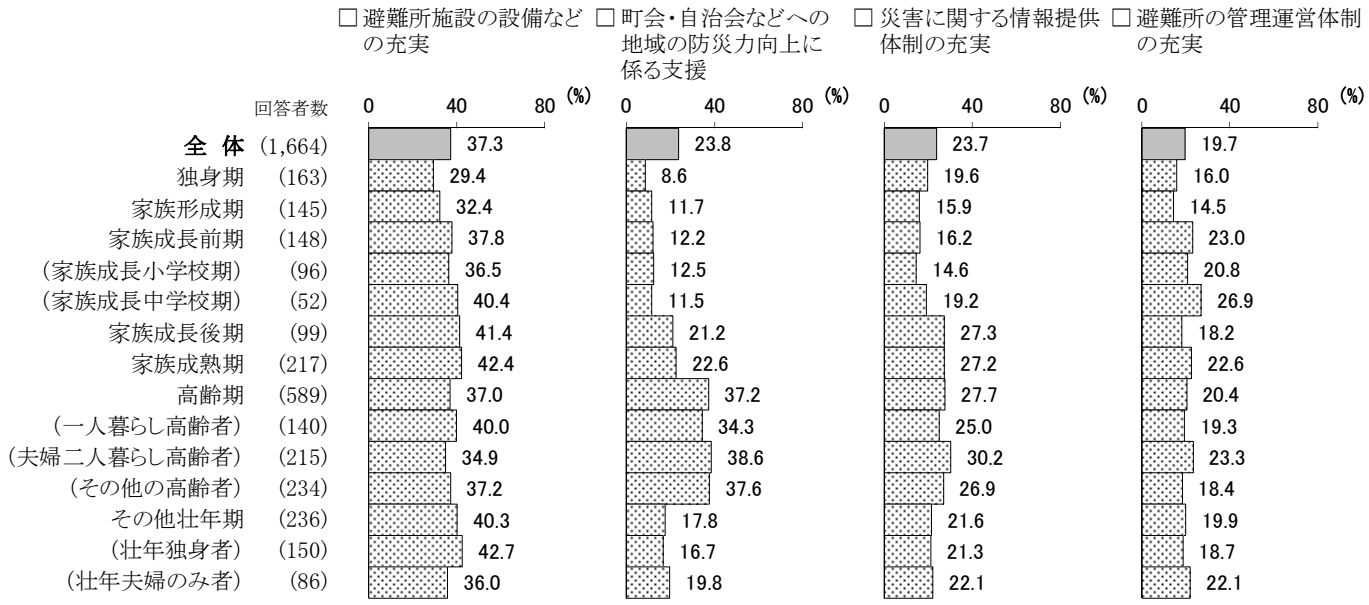
女性では、「非常用トイレの確保などの衛生対策の充実」について、40代、60代、70歳以上で、いずれも７割前後と他の年代より高くなっている。「ライフラインやエネルギーの確保」については、30代から60代で６割前後を占めている。

図２－１０－２　性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと／上位８項目





ライフステージ別でみると、家族成長後期、家族成熟期、高齢期では、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が、いずれも６割を超えている。また、「ライフラインやエネルギーの確保」については、家族成長前期、家族成熟期で７割近くを占めている。

図２－１０－３　ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位８項目